



## **Cisco Spaces - パートナーエコシステム**

最終更新：2026年1月15日

**シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー  
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター  
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）  
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00  
<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>





# 第 1 章

## Cisco Spaces - パートナーエコシステム

- Cisco Spaces - パートナーエコシステムの概要 (1 ページ)

### Cisco Spaces - パートナーエコシステムの概要

#### Cisco Spaces

Cisco Spaces のロケーションベースのプラットフォームは、既存の Wi-Fi インフラストラクチャと統合することで物理的なビジネススペースをデジタル化し、実用的なインサイトを提供してお客様のビジネス成果を向上させることを目的としています。Cisco Spaces は、物理的なビジネスロケーションで訪問者を接続、把握、および関与できるマルチチャネルエンゲージメントを可能にします。また、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。

#### パートナーダッシュボード

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードは、Cisco Spaces パートナーに、アプリケーションを表示、更新、追加、およびテストするための単一の場所を提供します。また、パートナーエコシステムを介して Cisco Spaces プラットフォームの機能を拡張することもできます。パートナーは、ワイヤレスアクセスポイントによって収集された位置データにアクセスし、このデータを使用してビジネスアプリケーションを拡張できます。Cisco Spaces および Cisco Spaces - パートナーダッシュボード GUI は、人を引き付けるような設計の実装をサポートするように拡張されています。GUI の変更は、上部のヘッダー パネルと左側のナビゲーション ウィンドウに実装されています。

#### Partner Firehose API

Cisco Spaces - Partner Firehose API は、リアルタイムデータを発生と同時に安定して継続的に提供します。データが処理されると、ビジネスニーズに合わせて可視化、公開、グラフ化できます。

Firehose API を使用すると、アプリケーション開発者は、パートナーエコシステムを使用してアプリケーションを作成し、Partner App Center に公開できます。これにより、独立系ソフトウェアベンダーは、業種に関連した、事前検証済み、およびテスト済みのロケーションベース

のソリューションアプリケーションを有効にし、ライブアプリケーションをパートナー アプリケーションセンターに公開できます。Cisco Spaces - Partner Firehose API の詳細については、<https://developer.cisco.com/docs/cisco-spaces-firehose/> にアクセスしてください。

アプリが承認され、パートナー アプリケーションセンターでライブになると、Cisco Spaces のすべてのお客様がアクティブ化できるようになります。お客様がアプリケーションをアクティブ化すると、お客様のデータが Partner Firehose API 経由でイベントとしてアプリケーションに流れ始めます。

パートナーダッシュボードでは、サードパーティのアプリケーション開発者と協力して、Cisco Spaces と Partner Firehose API の力を活用して、個々の企業やお客様向けにカスタマイズされたアプリケーションを構築することができます。

### パートナー アプリケーションセンター

Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターには、パートナーによって作成されたアプリケーションが表示されます。パートナー アプリケーションセンターを使用すると、お客様は、利用可能なパートナー アプリケーションを参照したり、目的のアプリケーションをアクティブ化したり、利用可能なパートナー アプリケーションの機能を活用したりできます。

アプリケーションが承認され Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターでライブになると、Cisco Spaces のすべてのお客様がアクティブ化できるようになります。お客様がアプリケーションをアクティブ化すると、お客様のデータが Partner Firehose API 経由でイベントとしてアプリケーションに流れ始めます。

すでにアクティブ化されているアプリケーションに新しいイベントを追加すると、新しいイベントに登録して権限を受け入れた場合にのみ、データが Partner Firehose API を介して送信されます。アプリケーションタイルに「New Permission Required」通知メッセージが表示されている場合は、そのタイルをクリックします。選択したアプリケーションの新しいイベントに登録するため、新しいアプリケーションの権限を受け入れます。

### パートナーオンボーディング

[Partners Onboarding Helper] ページには、パートナーダッシュボードの使用方法を説明するビデオとドキュメントが含まれています。また、パートナーダッシュボードと Cisco Spaces の統合に関する情報も含まれています。

[Partners Onboarding Helper] ページにアクセスするには、

<https://partners.dnaspaces.io/partner/onboarding/PartnerModel> に移動します。

また、次の方法で、パートナーダッシュボードから [Partners Onboarding Helper] ページにアクセスすることもできます。

- ログイン時に表示される [Cisco Spaces Partner Onboarding] ポップアップ ウィンドウで、[Get Started] をクリックします。



(注)

ログイン時に [Cisco Spaces Partner Onboarding] ポップアップウィンドウが再度表示されないようにする場合は、このポップアップウィンドウで [Do not show this again] オプションを選択します。

- パートナーダッシュボードで、次の説明に従って [Partner Onboarding] タイルをクリックします。
- パートナーダッシュボードの [BUILD, LEARN & ANALYZE] セクションで、[Partner Onboarding] > [More] の順にクリックします。
  - 情報が必要なオプションに対応するリンクをクリックします。次のオプションを使用できます。
    - パートナーダッシュボード
    - オンボーディングプロセス
    - IOT デバイスマーケットプレイス





## 第 2 章

# はじめに

- 前提条件 (5 ページ)
- Hello World アプリケーション (6 ページ)
- アプリケーション管理 (13 ページ)
- ユーザーロール (74 ページ)
- 次のステップ (76 ページ)

## 前提条件

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードを使用するには、次のものが必要です。

- パートナーダッシュボードのログイン情報 (5 ページ)
- ネットワーク要件 (6 ページ)

### パートナーダッシュボードのログイン情報

パートナーダッシュボードは、Cisco Spaces パートナーに、アプリケーションを表示、更新、追加、およびテストするための単一の場所を提供します。また、パートナーエコシステムを介して Cisco Spaces プラットフォームの機能を拡張することもできます。パートナーは、ワイヤレスアクセスポイントによって収集された位置データにアクセスし、このデータを使用してビジネスアプリケーションを拡張できます。

パートナーダッシュボードにアクセスするには、Cisco Spaces - パートナー アカウントが必要になります。Cisco Spaces - パートナーダッシュボード アクセスが有効になっている Cisco Spaces アカウントを使用して、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインできます。



(注) Cisco Spaces のログイン情報がない場合、または Cisco Spaces アカウントでパートナーダッシュボードへのアクセスが有効になっていない場合でも、パートナーダッシュボードにログインできます。パートナーダッシュボードにログインしたら、表示されるセルフオンボーディング ポップアップウィンドウで、次のオプションからアカウントタイプを選択します。

- [I want to create apps for my organization] : 組織の内部専用のアプリケーションを作成する場合は、このオプションを選択して [Continue] をクリックします。このオプションでは、アプリケーションをパートナー アプリケーションセンターに公開することはできません。
- [I'm a developer who provides solutions to Cisco Spaces customers] : グローバルなお客様向けのパートナー アプリケーションセンターにアプリケーションを作成して公開する場合は、このオプションを選択して [Continue] をクリックします。

Cisco Spaces - パートナーアカウントをリクエストするには、次の手順を実行します。

1. [Cisco Spaces - パートナーダッシュボード](#)に移動し、[Partner with us] をクリックします。[Contact Cisco Spaces team] セクションが表示されます。
2. 以下にリストされているオプションから適切なタブをクリックし、表示されるフォームに詳細を入力します。
  - Application or Solution Partner : これがデフォルトのタブです。
  - Device Vendor Partner
  - Channel Partner
  - Existing Cisco Spaces Customer
3. 選択したタブに応じて、[Submit] または [Contact Me] をクリックします。

Cisco Spaces のログイン情報について、Cisco Spaces - パートナーダッシュボード チームから連絡いたします。

#### ネットワーク要件

ネットワークは、シスコのコントローラベース (Catalyst または AireOS シリーズ) ネットワークまたは Cisco Meraki ネットワークのいずれかである必要があります。Cisco Catalyst または Cisco AireOS シリーズのコントローラベースのネットワークの場合は、Cisco Spaces コネクタも必要になります。詳細については、『[Cisco Spaces Setup Guide](#)』を参照してください。

## Hello World アプリケーション

このセクションでは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで最初のアプリケーションを作成する手順の概要を説明します。また、サンドボックス環境でアプリケーションをテストする

方法、アプリケーションをアクティブ化する方法、最後にアプリケーションのアクティベーションを検証する方法についても説明します。

## 最初のアプリケーションの作成

### 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードへ進みます。

**ステップ2** 登録した電子メール ID を入力し、[Continue] をクリックします。  
[Choose Partner] ポップアップウィンドウが表示されます。

**ステップ3** 複数のパートナーアカウントがある場合は、ドロップダウンリストから目的の [Partner Name] を選択し、[Login] をクリックします。

(注)

パートナーダッシュボードに初めてアクセスした場合は、ログイン後に次のポップアップウィンドウが表示されます。

- [Terms and Conditions Agreement] : 契約内容を確認し、同意して続行します。
- [Cisco Spaces Partner Onboarding] : [Partner Dashboard] の使用に関するサポートが必要な場合は、[Get Started] をクリックします。[Do not show this again] チェックボックスをオンにして、[Partner Dashboard] にログインするたびにこのポップアップウィンドウが表示されないようにすることができます。

統合された [Partner Dashboard] にログインした状態になります。

**ステップ4** [Create New App] タイルをクリックします。  
[Choose App Type] ポップアップウィンドウが表示されます。

**ステップ5** [Multi Tenant Cloud] を選択し、[Create] をクリックします。

(注)

さまざまなパートナーアプリケーションのタイプに関する詳細については、「[アプリケーションのタイプ](#)」セクションを参照してください。

新しいアプリケーション作成フォームが表示されます。[App Center] がデフォルトのタブです。

**ステップ6** [App Center] タブで、次の詳細情報を入力します。

- a) [Choose the region] で、[Rest of the World (Except Europe region)] を選択します。

この選択により、アプリケーションを作成、アクティブ化、公開、および管理するリージョンが決まります。

- b) [APP Name] フィールドに、アプリケーションの名前を入力します。
- c) [APP Tagline] フィールドに、アプリケーションに関連するタグラインを入力します。
- d) [APP Icon] で、[Browse] ボタンをクリックして、アプリケーションのアイコンとして使用するイメージを選択してアップロードします。

- e) [APP Description] フィールドに、アプリケーションに関する説明を入力します。
- f) [Primary Industry] で、アプリケーションが対応する主な業界を選択します。

利用可能なオプションは以下のとおりです。

- **Retail**
- **Hospitality**
- **Health Care**
- **Manufacturing**
- **Education**
- **Financial Services**
- **Venues**
- **Workspace**
- **Real estate**
- **Others**

**ステップ7** [App Tile] タブをクリックします。

[App Tile Configuration] セクションが表示されます。

- [App Tile] ラベルを指定します。
- [App Tile Tagline] を指定します。
- [App Activation] で、アプリケーション認証をテストするためのシスコテスト認証サイトの次の詳細を入力します。
  - [OAuth] チェックボックスをオンにします。
  - [Client ID] : dnaspaces
  - [Client Secret Key] : c567560ad2e84795a8f16c32586e1f69b78cab02
  - [OAuth Login URL] : <https://trigue.dnaspaces.io/auth/login>
  - [OAuth Token URL] : <https://trigue.dnaspaces.io/auth/token>
  - [App Info URL] : <https://trigue.dnaspaces.io/appInfo>
  - [Dashboard URL] : <https://trigue.dnaspaces.io/auth/appLogin>
  - [Redirect URI] フィールドには、<https://partners.dnaspaces.io/partner/OAuthValidation> が自動入力されます。
  - [OAuth URL Configurations] で、[App Dashboard URL]、[OAuth Login URL]、[OAuth Token URL]、[App Info URL] を指定します。

(注)

すべての URL で <https://> プロトコルを使用する必要があります。

#### ステップ8 [Create] をクリックします。

[API Credentials for Pull Channels] には、アプリケーションの作成時に自動生成される [Environment type] と [API Key] の詳細が表示されます。この情報は、アプリケーションを [Edit] モードで開いたときにも表示されます。

## 最初のアプリケーションのアクティビ化

パートナー アプリケーションをアクティビ化するには、次の手順を実行します。

1. [App Activation Sandbox] でアプリケーションをアクティビ化してから、承認のために送信します。
2. 送信したアプリが Cisco Spaces サポートチームによって承認されたら、そのアプリケーションを公開して Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンター で利用可能になります。
3. お客様は、パートナー アプリケーションセンターからこのアプリをアクティビ化できます。

### 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [App Activation Sandbox] タイルをクリックします。

(注)

以前にアプリケーションをアクティビ化しているが、このアプリケーションで新しいイベントに登録している場合、アプリケーションタイルに「New Permissions Required」の通知が表示されます。特定のアプリケーションタイルをクリックし、新しいイベントの権限を確認し、[Accept Permission] を選択します。

[Accept Permission] を選択すると、選択したアプリケーションで新しいイベントに登録され、このイベントも Cisco Spaces - Partner Firehose API を介して送信されます。

**ステップ3** [EXTEND] セクションで、[Get Partner Apps] タイルをクリックします。

(注)

[App Activation Sandbox] は、作成したアプリケーションのみが表示されます。

**ステップ4** 目的のアプリケーションをクリックして、関連する詳細を表示します。

**ステップ5** [Activate App] をクリックします。

アプリケーションのアクティベーション ウィザードが表示されます。

**ステップ 6** パートナー カウントがある場合は、[Sign Up & Onboarding] で適切なオプションを選択し、[Continue] をクリックします。

[Permissions] ページが表示されます。

**ステップ 7** [Accept Permission] をクリックして続行します。

[Choose Locations] ページが表示されます。

**ステップ 8** このアプリケーションを有効にしてアクティブ化するロケーションを選択します。アプリケーションの作成中に設定された IoT サービスに関するイベントの選択に応じて、[Next] または [Select & Activate] ボタンが表示されます。

- [Next] ボタンが表示された場合は、[ステップ 9 \(10 ページ\)](#) に移動します。
- [Select & Activate] ボタンが表示された場合は、[ステップ 10 \(10 ページ\)](#) に移動します。

**ステップ 9** [Next] をクリックします。

[Choose Groups] ページが表示されます。

**ステップ 10** [Select & Activate] をクリックしてアプリケーションをアクティブ化します。

(注)

シスコ認証サイトを使用してアプリケーションをアクティブ化します。[Select & Activate] をクリックすると、Trigue のログインページにリダイレクトされます。次の詳細を入力してログインします。

- [User name] : **admin@trigue.proximitymx.io**
- [Password] : **admin**
- (パートナーの) テナント ID

**ステップ 11** アクティベーションのためにアプリケーションを送信します。

アクティブ化されると、アプリケーションが Cisco Spaces ホームページの下にパネルとして追加されます。

## Trace Firehose

**Trace Firehose** には、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードからアプリケーションの Cisco Spaces Firehose データを表示またはダウンロードするオプションがあります。選択したアプリケーションにアクティベーションがある場合のみ、データは **Trace Firehose** に存在します。

パートナーは、過去 24 時間から 1 時間ごとの Cisco Spaces Firehose データをダウンロードしたり、イベントが同時に発生したときにライブデータを表示したりすることができます。**Trace Firehose** レポートで使用できる情報は、選択したパートナー アプリケーションのタイプおよびオプションによって異なります。

## 手順

---

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

(注)

- EU 地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.dnaspaces.eu> でダッシュボードにログインします。
- シンガポール地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.ciscospaces.sg> でダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [Your Apps] で、Cisco Spaces Firehose データを表示またはダウンロードするアプリケーションに移動します。

**ステップ3** 省略記号アイコン ([...]) > [Trace Firehose] をクリックします。

選択したアプリケーションの [Trace Firehose] ページが表示されます。

**ステップ4** 以下にリストされているオプションから適切なオプションを選択することで、Cisco Spaces Firehose データを表示またはダウンロードできます。

- [Download Historical Data] : 過去 24 時間の 1 時間ごとの Cisco Spaces Firehose データをダウンロードします。

詳細については、「[履歴データのダウンロード \(11 ページ\)](#)」を参照してください。

- [Download Realtime Data] : 現在の Cisco Spaces Firehose データをストリーミングします。

詳細については、「[リアルタイムデータのダウンロード \(12 ページ\)](#)」を参照してください。

---

## 履歴データのダウンロード

1 時間ごとの Cisco Spaces Firehose データをダウンロードするには、次の手順を実行します。

## 手順

---

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

(注)

- EU 地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.dnaspaces.eu> でダッシュボードにログインします。
- シンガポール地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.ciscospaces.sg> でダッシュボードにログインします。

## ■ リアルタイムデータのダウンロード

**ステップ2** [Your Apps] で、Cisco Spaces Firehose データを表示またはダウンロードするアプリケーションに移動します。

**ステップ3** 省略記号アイコン ([...]) > [Trace Firehose] をクリックします。

(注)

- ・マルチテナントクラウドアプリケーションの場合は、[ステップ6（12ページ）](#) に進みます。
- ・<https://partners.dnaspaces.eu> または <https://partners.ciscospaces.sg> でダッシュボードを使用している場合は、目的のアプリケーションの [Trace Firehose] をクリックします。

選択したアプリケーションの [Trace Firehose] ページが表示されます。

**ステップ4** [Customer] ドロップダウンから、お客様を選択します。

**ステップ5** [Activation] ドロップダウンから、特定のアクティベーションを選択します。

**ステップ6** [Download Historical Data] を選択します。

**ステップ7** [Time] ドロップダウンから、目的の1時間のタイムスロットを選択します。

(注)

アプリケーションがアクティブ化されても、選択されたタイムスロットで利用可能なデータがない場合、「No events found」というメッセージが、対応するタイムスタンプとともに表示されます。

**ステップ8** [Download] をクリックします。

<dd-mm-yyyy hh-firehose-data>.txt ファイルを目的の場所に保存するように求められます。

## リアルタイムデータのダウンロード

現在の Cisco Spaces Firehose データを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

(注)

- ・EU 地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.dnaspaces.eu> でダッシュボードにログインします。
- ・シンガポール地域固有のアプリケーションについては、<https://partners.ciscospaces.sg> でダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [Your Apps] で、Cisco Spaces Firehose データを表示またはダウンロードするアプリケーションに移動します。

**ステップ3** 省略記号アイコン ([...]) > [Trace Firehose] をクリックします。

## (注)

- ・マルチテナントクラウドアプリケーションの場合は、[ステップ6（12ページ）](#)に進みます。

- ・<https://partners.dnaspaces.eu> または <https://partners.ciscospaces.sg> でダッシュボードを使用している場合は、目的のアプリケーションの[Trace Firehose]をクリックします。

選択したアプリケーションの[Trace Firehose]ページが表示されます。

**ステップ4** [Customer] ドロップダウンから、お客様を選択します。

**ステップ5** [Activation] ドロップダウンから、特定のアクティベーションを選択します。

**ステップ6** [Download Realtime Data] を選択します。

**ステップ7** [Stream Data] をクリックします。

## (注)

アプリケーションがアクティブ化されていても、ストリーミングできる現在のデータがない場合、「No data available」というメッセージが表示されます。

選択したアプリケーションの最新のCisco Spaces Firehoseデータ（最大5,000レコード）がストリーミングされ、そのうち最新の30レコードが表示されます。

**ステップ8** (任意) [Stop Streaming] をクリックすることで、いつでもCisco Spaces Firehoseデータのストリーミングを停止できます。

---

## アプリケーション管理

### アプリケーションのタイプ

お客様に提供するサービスに基づいて、次のタイプのパートナーアプリケーションをCisco Spaces - パートナーダッシュボードで作成し、Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターに公開できます。

- ・クラウドアプリケーション

- ・マルチテナントクラウドアプリケーション：ソフトウェアおよびそのサポートインフラストラクチャの单一インスタンスが複数のお客様にサービスを提供するマルチテナント展開では、このオプションを選択します。アプリケーションをアクティブ化するすべてのお客様のイベントデータは单一のストリームで送信されます。

マルチテナントクラウドアプリケーションの作成方法については、「[マルチテナントクラウドパートナー アプリケーションの作成（19ページ）](#)」を参照してください。

- ・シングルテナントクラウドアプリケーション：このアプリケーションは、ソフトウェアおよびそのサポートインフラストラクチャの单一インスタンスが单一のお客様に

## パートナーアプリケーションのライフサイクルおよびアクティベーションフロー

サービスを提供するシングルテナント展開向けです。アプリケーションをアクティベート化するそれぞれのお客様のイベントデータは別個のストリームで送信されます。

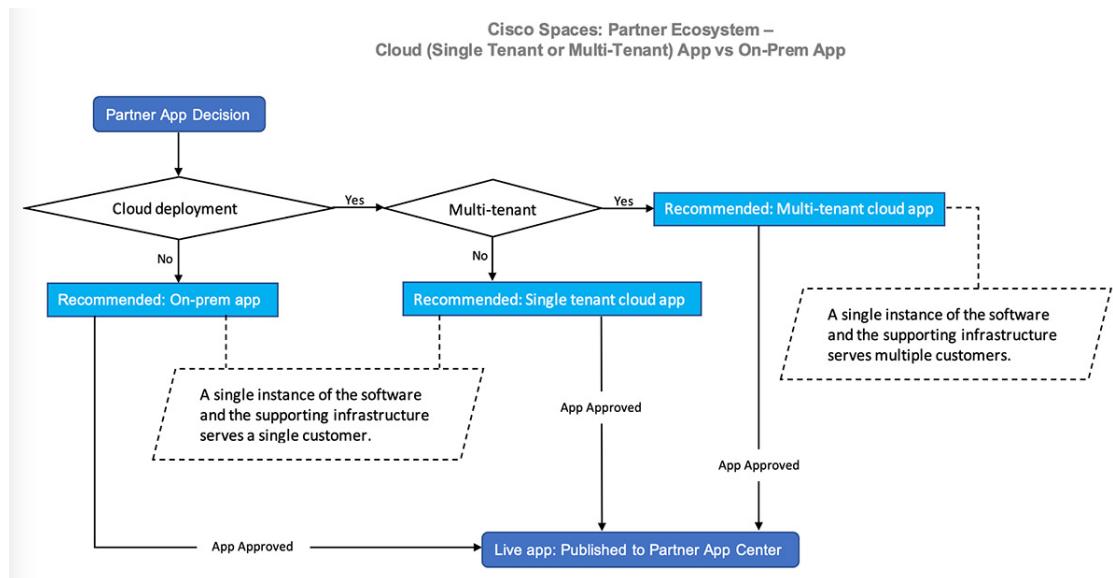
シングルテナントクラウドアプリケーションの作成方法については、「[シングルテナントクラウドパートナーアプリケーションの作成 \(39 ページ\)](#)」を参照してください。

- オンプレミスアプリケーション：ソフトウェアおよびそのサポートインフラストラクチャの単一インスタンスが単一のお客様にサービスを提供するシングルテナント展開では、このオプションを選択します。アプリケーションをアクティベート化するそれぞれのお客様のイベントデータは別個のストリームで送信されます。

オンプレミスアプリケーションの作成方法については、「[オンプレミスパートナーアプリケーションの作成 \(53 ページ\)](#)」を参照してください。

次の意思決定マトリックスは、適切なアプリケーションタイプを選択するために役立ちます。

図 1: Cisco Spaces パートナーアプリケーション - 意思決定マトリックス



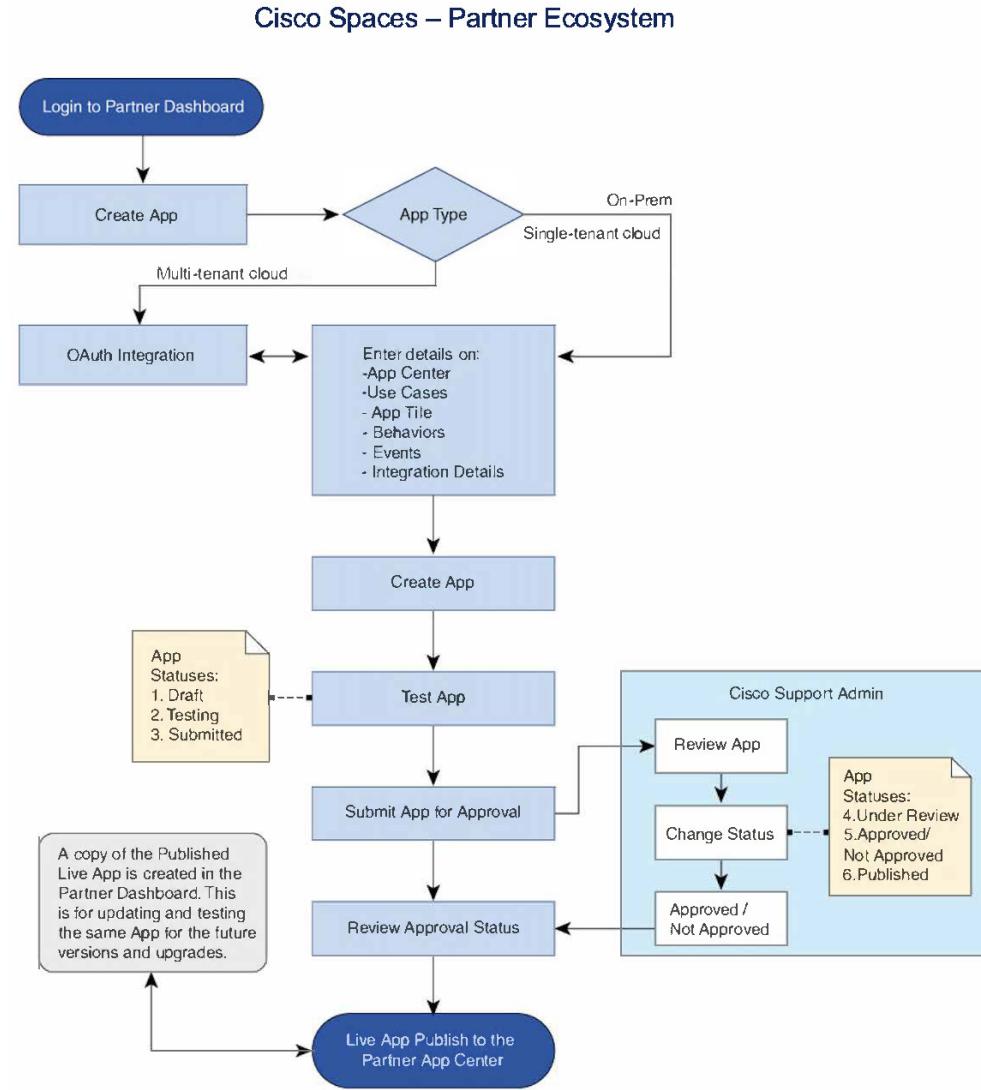
アプリケーションの [App Center]、[Use Cases]、[App Tile]、および [Behaviors] タブで指定された構成によって、アプリケーションが Cisco Spaces App Center でどのようにレンダリングされるかが決まります。お客様がアプリケーションをアクティベート化すると、イベントの設定に基づいて、Cisco Spaces からさまざまなイベントデータを使用できます。また、[Integration Details] タブの設定を使用して、イベントデータを使用する方法を決定できます。

## パートナーアプリケーションのライフサイクルおよびアクティベーションフロー

次のフローチャートは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードでのパートナーアプリケーションの作成、テスト、および送信に関連するプロセスを示しています。また、Cisco Spaces -

パートナー-applicationセンターへのapplicationの公開に関するプロセスの概要も説明されています。

図2:パートナー-applicationライフサイクル



356555

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで作成されたすべてのパートナー-applicationは、さまざまなステータスを経由します。これらのapplicationのステータスの一部は、上のスクリーンショットに示されています。Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで示される各applicationのステータスの詳細については、以下のリストを参照してください。

- [DRAFT] : これは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで新しく作成されたapplicationの初期ステータスです。
- [TESTING] : テストを受けている間、applicationはこのステータスで表示されます。

## パートナーアプリケーションのライフサイクルおよびアクティベーションフロー

- [SUBMITTED]：レビュー用に送信されたがまだレビューされていない場合に、アプリケーションはこのステータスで表示されます。



(注) アプリケーションを送信する前に、次のことを確認してください。

- マルチテナントクラウドアプリケーションの場合は、OAuth 統合用の Cisco Spaces テスト認証サイト (Trigue) の URL を、お使いのアプリケーションの OAuth 統合 URL に置き換えていること。
- モニタリング API を設定していること。

- [UNDER REVIEW]：レビュー用に送信されたが公開が承認されていない場合に、アプリケーションはこのステータスで表示されます。

- [APPROVED]：アプリケーションレビュー担当者がアプリケーションを承認すると、アプリケーションはこのステータスで表示されます。

アプリケーションが承認されると、そのアプリケーションを公開できます ([Live] ステータスに変更されます)。

- [NOT APPROVED]：レビュー用に送信したアプリケーションの設定が正しくないか、コンプライアンス要件を満たしていないことをアプリケーションレビュー担当者が特定すると、アプリケーションはこのステータスで表示されます。

レビュー担当者は、アプリケーションが承認されなかった理由を説明し、アプリケーションを [NOT APPROVED] ステータスに設定します。これらのコメントを確認し、必要な変更を組み込んだら、承認のためにアプリケーションを再送信する必要があります。

- [LIVE]：アプリケーションがレビューと承認後にCisco Spaces - パートナーアプリケーションセンターに公開されると、アプリケーションはCisco Spaces - パートナーダッシュボードにこのステータスで表示されます。

アプリケーションが公開されたら、[Integration Details] のみを編集できます。ただし、公開後にアプリケーションを更新する場合は、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードでアプリケーションを選択し、[More] > [Update App] に移動します。これにより、バージョンが増えて、ライブアプリケーションのドロフトバージョンが作成されます。準備ができたら、承認のためにアプリケーションを送信します。

送信されたアプリケーションの [Events] セクションに変更がない場合、そのアプリケーションは送信時に自動的に承認されます。ただし、[Events] セクションに変更がある場合、アプリケーションは承認ワークフローへと進みます。

この承認された（または自動承認された）バージョンのアプリケーションの変更は、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードのアプリケーションのライブバージョンと統合されます。更新されたアプリケーションが公開されると、Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターに表示されます。

ションセンター内のライブアプリケーションのバージョンも1ずつ増加して、承認された変更が統合されたことが示されます。

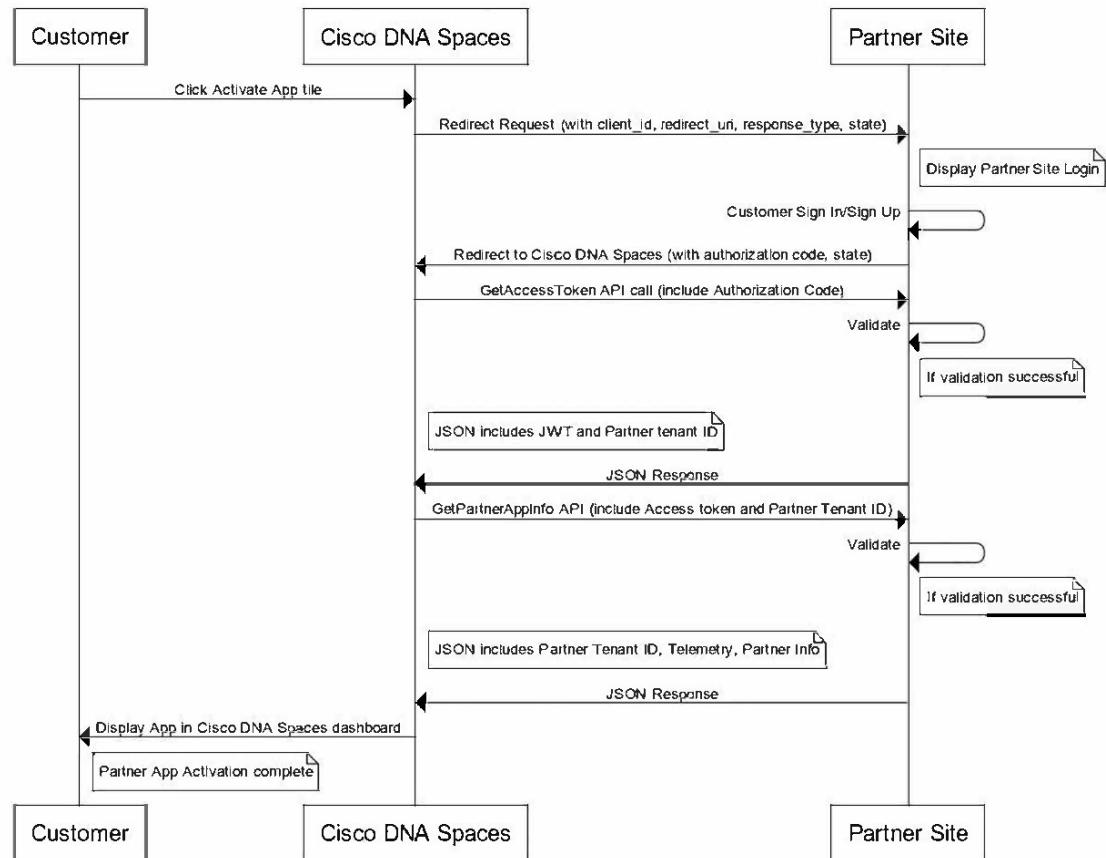
アプリケーションのステータス	編集可能なタブ	非表示タブ
<b>Draft</b>	すべてのタブ	X
<b>Testing</b>	すべてのタブ	X
<b>Submitted</b>	X	X
<b>Under Review</b>	X	X
<b>Not Approved</b>	すべてのタブ	X
<b>Coming Soon</b>	X	X
<b>Approved</b>	X	X
<b>Live</b>	[Integration Details] タブ	[Integration Details] タブを除くすべてのタブ

お客様がアプリケーションをアクティブ化して使用できるようにするには、以下にリストされているフローから適切なフローを使用して、アプリケーションのアクティベーションフローを Cisco Spaces と統合する必要があります。アクティベーションフローは、アプリケーションのタイプによって異なります。

次に示すのは、マルチテナント クラウドパートナー アプリケーションのアクティベーションシーケンス図です。

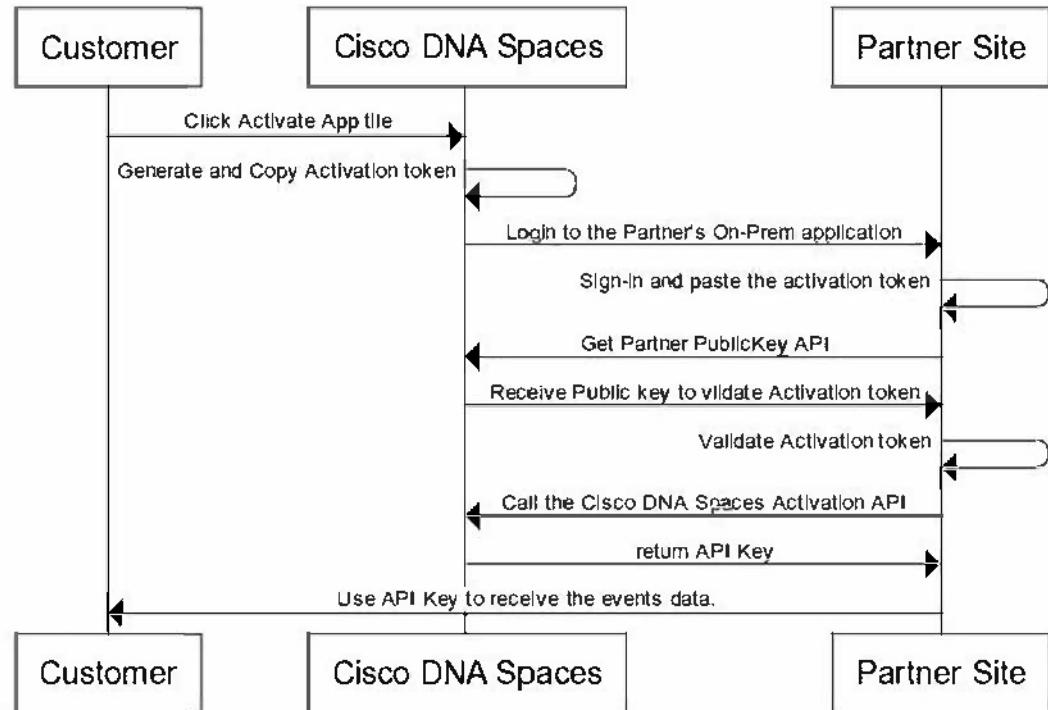
## パートナーアプリケーションのライフサイクルおよびアクティベーションフロー

図 3: アプリケーションのアクティベーションフロー : マルチテナントクラウドパートナー アプリケーション



次に示すのは、オンプレミスパートナー アプリケーションのアクティベーションシーケンス図です。

図 4: アプリケーションのアクティベーションフロー: オンプレミスおよびシングルテナントクラウドパートナー アプリケーション



## マルチテナントクラウドパートナー アプリケーション

### マルチテナントクラウドパートナー アプリケーションの作成

#### 手順

- ステップ1** <https://partners.dnaspaces.io/> にアクセスして、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。
- ステップ2** [Partner Apps] セクションの下にある [Create New App] タイルをクリックします。  
[Choose App Type] ダイアログボックスに、[Multi Tenant Cloud]、[Single Tenant Cloud]、および [On-Prem] オプションが表示されます。
- ステップ3** [Multi Tenant Cloud] を選択し、[Create] をクリックします。  
[App Center]、[Uses Cases]、[App Tile]、[Behaviors]、[Events]、および [Integration Details] タブがある新しいページが表示されます。
- ステップ4** デフォルトでは、[App Center] タブが表示されます。

- a) 目的の地域を選択します。ヨーロッパ地域用のアプリケーションを作成、アクティブ化、公開、および管理するには、[Europe Region] オプションを選択します。それ以外の場合は、[Rest of the World (Except Europe region)] オプションを選択します。
- b) 関連する [APP Name] を入力します。
- c) アプリケーションに関連する [APP Tagline] を入力します。
- d) [Choose File] ボタンをクリックして、[APP Icon] の画像を選択してアップロードします。
- e) 関連する [APP Description] を入力します。
- f) アプリケーションの [Primary Industry] を選択します。
- g) (任意) [More Industries] セクションで、アプリケーションが適用されるビジネスセグメントを選択します。

利用可能なオプションは以下のとおりです。

- **Retail**
- **Hospitality**
- **Health Care**
- **Manufacturing**
- **Education**
- **Financial Services**
- **Venues**
- **Workspace**
- **Real estate**
- **Others**

- h) (任意) また、次の詳細も追加できます。

(注)

ここで収集された情報は、Cisco Spaces - パートナーアプリケーションセンターでアプリケーション情報を表示する際に [App details] 画面に表示されます。ここに記載されているデベロッパーの詳細が最新であることを確認してください。

- [Developer Info] : [Developer Info] で、[Browse] をクリックして [Company Logo] を選択し、ファイルをアップロードします。
- [Company Name] : アプリケーションデベロッパーの [Company Name] を入力します。
- [Company Website] : アプリケーションデベロッパーの [Company Website] を入力します。
- [Support Contact] : [Support Phone] の番号と [Support Email] のアドレスを入力します。
- [Sales Contact] : [Sales Phone] の番号と [Sales Email] のアドレスを入力します。
- **Phone**
- [App Media] : アプリケーションに関する次の情報も追加できます。

- [Screenshots] : アプリケーションの [Screenshots] をローカルドライブから [Drag & drop] でアップロードするか、[Click here to upload] を使用してアップロードできます。
- [Youtube Video URL] : アプリケーションの [Youtube Video URL] を入力し、[Save] をクリックします。

**ステップ5** [Use Cases] タブで、[Add a Use Case] ボタンをクリックしてユースケースを追加します。

- 関連する [Use Case Headline] を入力します。
- [Choose File] ボタンをクリックして、[Use Case Icon] を選択してアップロードします。
- 関連する [Use Case Short Description] を入力します。
- オプションの [Use Case Long Description] を入力します（ある場合）。
- オプションの [Compatibility Notes] を入力します（ある場合）。
- 関連する [Use Case Category] を選択します。使用可能なオプションは、[Analytics]、[Captive Portal]、[Marketing & Engagement]、[Asset Management]、[Wayfinding]、[Mapping]、[Others] です。ユースケースが使用可能なカテゴリのいずれにも属していない場合は、[Others] を選択します。
- [Who is this use case applicable to?]、[What value does this drive for the customer?] の質問に対してその他のオプションのユースケースオプションを入力します。
- 必要に応じて、適切な [Infrastructure Compatibility] のオプションを選択します。
- 必要に応じて、関連する [Screenshots] および [Youtube Video URL] をアップロードします（ある場合）。
- [Save] をクリックして、変更内容を保存します。
- [Add Another Use Case] ボタンをクリックして、ユースケースを追加します。

**ステップ6** [App Tile] タブをクリックします。[App Tile Configuration] セクションが表示されます。

- 関連する [APP Tile Label] を入力します。
- 目的の [App Tile Tagline] の説明を入力します。
- [App Dashboard URL] を入力します。URL で **https://** プロトコルが使用されていることを確認します。
- [OAuth] チェックボックスをオンにします。
- [Client ID] を入力します。
- [Regenerate Secret] をクリックして、クライアントシークレットキーを生成します。この値は、[Client Secret] フィールドに自動的に入力されます。
- デフォルト値の **https://partners.dnaspaces.io/partner/OAuthValidation** が [Redirect URI] フィールドに自動的に入力されます。[OAuth Login URL] を、**https://** のプレフィックスを付けて指定します。

[OAuth Configuration] セクションで、[OAuth Login URL]、[OAuth Token URL]、[App Info URL] を入力します。これらの詳細は、パートナーによって確認され、提供される必要があります。

(注)

- ・アプリケーションの送信準備ができたら、Cisco Spaces のテスト認証サイト (Trigue) の URL を有効な OAuth URL に置き換えます。
- ・アプリケーションに、アプリケーションのアクティベーション用に設定された認証サイトがない場合は、アプリケーションの認証をテストするためにシスコのテストサイトを使用することができます。

US ドメインのCisco Spaces - パートナーダッシュボードの場合は、次の詳細を入力します。

- ・[Client ID] : **dnaspaces**
- ・[Client Secret Key] : **c567560ad2e84795a8f16c32586e1f69b78cab02**
- ・[OAuth Login URL] : **https://trigue.dnaspaces.io/auth/login**
- ・[OAuth Token URL] : **https://trigue.dnaspaces.io/auth/token**
- ・[App Info URL] : **https://trigue.dnaspaces.io/appInfo**
- ・[Dashboard URL] : **https://trigue.dnaspaces.io/auth/appLogin**

EU ドメインのCisco Spaces - パートナーダッシュボードの場合は、次の詳細を入力します。

- ・[Client ID] : **dnaspaces**
- ・[Client Secret Key] : **c567560ad2e84795a8f16c32586e1f69b78cab02**
- ・[OAuth Login URL] : **https://trigue.dnaspaces.eu/auth/login**
- ・[OAuth Token URL] : **https://trigue.dnaspaces.eu/auth/token**
- ・[App Info URL] : **https://trigue.dnaspaces.eu/appInfo**
- ・[Dashboard URL] : **https://trigue.dnaspaces.eu/auth/appLogin**

- ステップ7** [Behaviors] タブをクリックします。新規のお客様の自動サインアップをサポートする場合は、[App Behaviors] セクションに詳細を入力します。
- [NEW CUSTOMER ONBOARDING] セクションでは、新規のお客様のサインアップ用のリダイレクト URL を入力できます。[Sign Up URL] フィールドにリダイレクト URL を入力します。
  - [Contact Company Info] フィールドに正しいアドレスを入力します。
  - お客様がアプリケーションを削除するときに詳細を表示できるようにするには、[Delete App Confirmation] フィールドに詳細を入力します。URL で **https://** プロトコルが使用されていることを確認します。
  - [APP MONITORING] セクションで、[App Health Check URL]、[API Health Status URL]、および [App Status Page URL] を対応するフィールドに入力します。
- (注)

- ・アプリケーションモニタリング URL には **https://** を使用します。
- ・アプリケーションを送信する準備ができたら、有効なアプリケーションモニタリング URL を指定します。

アプリケーションモニタリング設定は、Cisco Spaces がアプリケーションの正常性とパートナーアプリケーションの稼働時間ステータスをモニターしてレポートするのに役立ちます。詳細については、[パートナーアプリケーションの正常性のモニター（69 ページ）](#) を参照してください。

**ステップ8** [Events] タブをクリックします。使用可能なアプリケーションの [Events Types] と [Event Settings] が一覧表示されます。

[Event Types] 画面に一覧表示されるイベントは、アプリケーションのアクティベーションの発生時点から、デバイスが存在し、他のさまざまなイベントタイプのデータが収集されるまで順番にトリガーされます。各イベントタイプは、特定のアクティビティが発生するとトリガーされます。

- ・例：お客様が初めてパートナーアプリケーションをアクティブ化すると、お客様がアプリケーションをアクティブ化したなどの情報の更新により、**アプリケーションアクティベーションイベント**がバックグラウンドでトリガーされます。
- ・次に、**ロケーション情報の変更**イベントがトリガーされ、ロケーション階層で構成されているさまざまなロケーションでのすべてのアクティベーションのロケーション変更情報が提供されます。
- ・Wi-Fi ロケーションのインフラストラクチャがセットアップされている場合、訪問者が SSID に接続すると、**デバイスのロケーションの更新**を受信します。
- ・ただし、デバイスが初めて SSID に接続した場合は、入場時に**デバイスプレゼンス**イベント情報も受信します。訪問者のデバイスがユーザー ID に関連付けられている場合は、**ユーザー プrezens**イベントタイプを受信します。ユーザーのデバイスの状態に基づいて、その他のイベントデータ情報を受信します。例：ユーザーのデバイスがパッシブであるか、指定された 10 分間にわたってデバイスの更新がない場合、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**の両方のイベント情報が**非アクティブ**として示されます。例：訪問者がモバイルデバイスとラップトップなど、一度に複数のデバイスを持ってロケーションに入り、両方のデバイスでロケーションの更新が 10 分間受信されていない場合、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**のイベントは**非アクティブ**として示されます。
- ・いずれかのデバイスがロケーションでアクティブになると、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**のイベントステータスが自動的に**アクティブ**に変わります。いずれかのデバイスまたは両方のデバイスがより長い期間または指定された時間間隔で**非アクティブ**になると、**デバイス プrezens**イベントがトリガーされます。
- ・ビジネスロケーションに TelePresence デバイスが設定されている場合、その TelePresence デバイスは、組み込みセンサーを使用して、部屋内の**人数占有率**と**人数カウント**のデータを送信します。**人数カウント**データは概算ですが、**人数占有率**データは正確です。変更が特定されるたびに、システムは更新されたデータを自動的に送信します。

## (注)

適用可能でビジネスユースケースに必要なイベントタイプのみを選択することを強く推奨します。これにより、イベント数は制限され、不要なシステムオーバーヘッドは回避されます。具体的には、**BLE 更新**、および**デバイス RSSI 更新**イベントは、TelePresence デバイスを Cisco Spaces とやり取りするように設定している場合にのみ登録する必要があります。これにより、受信するイベントの数を制限し、不要なオーバーヘッドを回避できます。

- a) 表示される使用可能な [Events Types] は次のとおりです。

- [Device Entry] : このイベントは、デバイスがロケーションに入場したときに送信されます。

## 注目

[Device Entry] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Device Exit] : このイベントは、デバイスがロケーションから退出したときに送信されます。

## 注目

[Device Exit] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Device RSSI Update] : このイベントは、デバイスの RSSI が更新されたときに送信されます。

- [BLE RSSI Update] : このイベントは、ロケーションで BLE デバイスから ping があったときに送信されます。

- [Profile Update] : このイベントは、デバイスプロファイルが変更されたときに送信されます。たとえば、エンドユーザーがキャプティブポータルで情報を提供すると、送信されます。

- [Location Information Change] : このイベントは、ロケーションが変更されたときに送信されます。たとえば、ロケーションの名前が変更されたり、ロケーションがグループの下に移動したり、ロケーションのメタデータが変更された場合です。

- [Device Location Update] : このイベントは、デバイスのロケーションが更新されたときに送信されます。[Receive Geo Coordinates data for Device Location Update event] オプションを選択すると、デバイスの緯度および経度に加え、デバイスの X および Y 座標を受信するようになります。

- [App Activation] : このイベントは、お客様がアプリケーションをアクティビ化したときに送信されます。

- [Account Admin Change] : このイベントは、パートナーアカウントのアカウント管理者が追加、削除、または更新されたときに送信されます。

- [Device Presence] : このイベントは、ロケーションでのデバイスのライフサイクルを追跡するために使用されます。デバイスが入場したとき、デバイスが10分間非アクティブになったとき、デバイスが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはデバイスが退出したと判断したときなど、さまざまな時点でイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロケーションにあるアクティブなデバイスと非アクティブなデバイスの数も提供します。
- [User Presence] : 使用中の利用可能な認証とネットワークから入手可能な情報に基づいて、Cisco Spaces はユーザーが所有するグループの複数のデバイスをマッピングできます。ユーザーが入場したとき、ユーザーが10分間非アクティブになったとき、ユーザーが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはユーザーが退出したと判断したときなど、さまざまな時点でイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロケーションにあるアクティブなユーザーと非アクティブなユーザーの数も提供します。
- [IoT Telemetry] : このイベントは、BLE、RFID、および Zigbee IoT デバイスからのテレメトリの更新があったときに送信されます。
- [IoT User Action] : このイベントは、IoT デバイスでユーザーアクションが実行されたときに送信されます。
- [Device Count] : このイベントは、ロケーションにあるデバイスの（カウント）数に変化があったときに送信されます。
- [Camera Count] : このイベントは、ロケーションで集計された人数（Meraki Video カメラを介して計算）に変化があったときに送信されます。
- [Raw Camera Count] : このイベントは、ロケーションにある個々のカメラ数（Meraki Video カメラを介して計算）に変化があったときに送信されます。
- [Network Telemetry] : このイベントは、ロケーションの正常性およびパフォーマンスのテレメトリとともに定期的に送信されます。
- [Location Anchor Update] : このイベントは、新しいロケーションのアンカーが IoT サービスに追加されたり、IoT サービスで更新されたり、IoT サービスから削除されたりしたときに送信されます。
- [Network Status Update] : このイベントは、コネクタおよびコントローラのステータスを表すために送信されます。
- [TelePresence] : このイベントは、TelePresence システムで人数カウントの更新があったときに送信されます。

#### 注目

[TelePresence] イベントは廃止され、Telepresence の更新の拡張バージョンである [Webex Telemetry] イベントに置き換えされました。

- [Webex Telemetry] : このイベントは、ロケーションで Webex デバイスからのテレメトリがあったときに送信されます。

(注)

このイベントを利用するには、Cisco Spaces ACT ライセンスが必要です。

- [Device Association] : このイベントは、デバイスが SSID に正常に接続するか（**ASSOCIATE**）、SSID から切断された（**DISASSOCIATE**）ときにトリガーされます。デバイスの詳細には、デバイス ID、ロケーションの詳細、SSID、およびユーザーに関連付けられたその他の情報が含まれます。

(注)

- 詳細については、<https://developer.cisco.com/docs/cisco-spaces-firehose/api/> を参照してください。
- アプリのアクティブ化中に、IoT サービスで定義されたグループを表示できるようになりました。ただし、これらのグループは、次のイベントのいずれかを選択した場合にのみ表示されます。

- **IOT\_TELEMETRY**

- **IOT\_USER\_ACTION**

アプリのアクティブ化中に選択したグループを管理するには、[Activation] ウィンドウで、[Groups] タブをクリックします。ここで、グループを追加または編集できます。

(注)

- この機能を使用するには、指定した Cisco Spaces アカウントの IoT サービスを有効にする必要があります。この機能を使用するには、Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボード for EXTEND アカウントの両方から IoT サービスを有効にする必要があります。
- Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方で実行されたアクティベーションのアプリのアクティベーション中に、上記のグループを確認できます。

b) [Event Settings] セクションで、目的のロケーションのオプションをオンにします。

- [Choose Locations] で、Cisco Spaces - ロケーション階層で指定されたさまざまなロケーションレベルについて、上記のイベントタイプデータを受信することを選択できます。Cisco Spaces 内のロケーション階層は、物理的または地理的なビジネス階層のみ対応するのではなく、ビジネスニーズと組織階層に対応するようにセットアップできます。

Cisco Spaces では、メインまたは[Root Level]を定義することによって、ビジネス組織の階層を設定できます。このレベルには、1つ以上の[Group] および[Network] レベルを含めることができます。各ネットワークレベルには1つ以上のフロアを含めることができます。各フロアレベルには1つ以上のゾーンを含めることができます。アクセスポイントは、さまざまなゾーンに関連付けることができます。

- アプリケーションを使用可能にして、すべてのビジネスロケーションからイベントデータを受信する場合は、[All Location Types] をオンにします。

- ・アプリケーションを使用可能にして、選択した特定のロケーションタイプからのみイベントデータを受信する場合は、[Location Types] オプションをオンにします。使用可能なロケーションタイプは、[Root Level]、[Groups]、[Network]、[Floor]、および[Zone] です。

(注)

[Network]、[Floor]、または[Zone] レベルのみなど、ロケーション階層の特定のレベルでのみ運用している場合、不要なシステムオーバーヘッドを回避するために、その特定のレベルについてのみイベントデータを受信することを強く推奨します。Cisco Spaces - ロケーション階層のすべてのレベルの情報を処理する必要がある場合にのみ、[All Location Types] オプションを選択してください。

- ・目的のロケーションタイプを選択します。
- ・上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードにデバイスの MAC アドレスが含まれています。[MAC Address Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンにすると、クライアントの MAC アドレスおよび関連するイベントの詳細を受信するようになります。MAC アドレスの共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ビジネス要件でデバイス ID のみが必要な場合は、Cisco Spaces が提供するデバイス ID のイベントタイプデータをデバイス関連のすべてのイベントとともに使用できます。
- ・上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードでソーシャル識別子の共有データが含まれます。[Social Identifier Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンにすると、ソーシャル識別子の共有データおよび関連するイベントの詳細を受信するようになります。ソーシャル識別子の共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ソーシャル識別子の共有データの処理または保存中にデータプライバシーの問題を回避する場合は、[No] オプション（デフォルトでオンになっています）を選択できます。
- ・おそらく一部のパートナーでは、ワイヤレスネットワークインフラストラクチャが完全にセットアップされておらず、受信したデータを分析するために上記のイベントタイプ情報を受信するように設定されていない場合があります。上記のイベントから受信される一般的なサンプルデータを一目で確認するには、[Receive Simulation Events] オプションに関連付けられている [Yes] オプションを選択します。Cisco からサンプルのダミーデータを受信するようになります。

(注)

- ・[Simulation Events] の一部として提供されるデータは、ダミーデータのみです。このサンプルデータは、他のイベントまたは API 間での相互運用性または完全性を保証するものではありません。
- ・シミュレーションデータは US ドメインでのみ使用できます。

Cisco からダミーのシミュレーションイベントデータを受信しない場合は、[No] をオンにします。

右側の [Permissions] および [Location Permissions] セクションには、アプリケーションのアクティベーション中にお客様から要求される権限のタイプに関する情報が表示されます。権限は、選択したイベントタイプに基づきます。たとえば、デバイスの MAC アドレスを収集する場合、アプリケーションはお客様の MAC 固有の権限を要求します。これらの権限は、選択したイベント、ロケーション、およびプライバシー設定に基づきます。

**ステップ9** [Integration Details] タブで、目的の [Integration Types] の詳細を選択します。

(注)

パートナーアプリケーションを作成し、Cisco Spaces で使用できるようにした後、お客様がそのアプリケーションをアクティベーションすると、プッシュチャネルまたはプルチャネルを使用して Cisco Spaces からデータを受信することを選択できます。以下に、プッシュチャネルを選択した場合とプルチャネルを選択した場合の、それぞれの必要な設定を示します。

**プッシュチャネル** : Cisco Spaces Firehose API プッシュチャネルは、Amazon AWS、Google Cloud、または Microsoft Azure をすでに使用している場合、簡単に設定して実行できます。ログイン情報とエンドポイントの詳細を入力するだけで、すぐにデータの受信を開始できます。Cisco Spaces は、設定が完了するとすぐに API チャネルを介してデータを継続して送信し始めます。詳細については、「[Push Channels](#)」セクションを参照してください。

a) [Push Channels] セクションで、目的のオプションをオンにします。

- [AWS Kinesis] チェックボックスをオンにして、AWS Kinesis Data Stream にイベントをプッシュします。
  - 必要な [AWS Region] を選択します。
  - AWS で [Data Stream] を作成するときに使用した正確なストリーム名を入力します。
  - 正しい [AWS Access Key] を入力します。
  - 正しい [AWS Secret Key] を入力します。
- [AWS Kinesis Firehose] チェックボックスをオンにして、イベントの詳細を AWS Kinesis Data Firehose にプッシュします。
  - 必要な [AWS Region] を選択します。
  - AWS で [Delivery Stream] を作成するときに使用した正確なストリーム名を入力します。
  - 正しい [AWS Access Key] を入力します。
  - 正しい [AWS Secret Key] を入力します。
- [Azure Events Hub] チェックボックスをオンにして、プッシュイベントを Azure Event Hub に送信します。
  - 正しい [ConnectionString] を入力します。

・[Google Pub/Sub] チェックボックスをオンにして、イベントを Google Pub/Sub にプッシュします。

- ・正しい [Project ID] を入力します。

- ・正しい [Topic ID] を入力します。

(注)

[AWS Secret Key] および [Connection String] フィールドが、アプリケーションの作成中または編集中にマスクされるようになりました。

**プルチャネル** : Cisco Spaces は、パートナーアプリケーションによって要求が開始されると、データの送信を開始します。リクエストを開始すると、パートナーアプリケーションは最近のイベントの再生をリクエストできます。このオプションを使用すると、データを損失することなく処理を再開できます。アプリケーションには、ストリーミングデータをプルするために認証された API キーが必要です。アプリケーションは、HTTP プルチャネルを使用して、HTTP/2 または HTTP 1.x プロトコルでイベントを取得できます。アプリケーションは、Cisco Spaces Firehose API HTTP エンドポイントへの HTTP GET を開始します。HTTP 接続がアクティブである限り、イベントは発生した際に GET リクエストへの応答として継続的に送信されます。

プルチャネルでは、データを損失することなく短時間で再開できます。これは、データを損失することなく、システムのアップグレードや短時間の停止を実行する場合に特に役立ちます。詳細については、「[Pull Channels](#)」セクションを参照してください。

a) [Pull Channels] セクションでは、次のオプションから選択できます。

- ・[HTTP] : ストリーミング HTTP 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。

- ・[gRPC] : ストリーミング gRPC コールを介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。

- ・[Websocket] : ストリーミング Websocket 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。

(注)

詳細については、「[Pull Channels](#)」にアクセスしてください。

**ステップ 10** [Create] をクリックしてアプリケーションを作成します。

[API Credentials for Pull Channels] には、アプリケーションの作成時に自動生成される [Environment type] と [API Key] の詳細が表示されます。同じ情報は、アプリケーションを [Edit] モードで開いたときにも表示されます。

(注)

アクティブ化されたマルチテナントクラウドアプリケーションのセキュリティを向上させるために、90 日に一度といった特定の間隔で、または必要に応じてアプリケーションの API キーを更新することをお勧めします。アプリケーションの API キーを更新するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを [Edit] モードで開きます。
  2. [Integration Details] タブをクリックします。
  3. [API Credentials for Pull Channels] セクションで、目的の [Environment] セクションにマウス ポインタを合わせて、関連するアプリケーションの API キーを表示します。  
推奨される更新日を確認します。
  4. [Renew] をクリックします。  
確認ボックスが表示されます。
  5. 選択した環境の新しい API キーを生成するには、[Renew] をクリックします（複数の環境がある場合）。
- （注）  
アプリが [Draft] 状態の場合、サンドボックスキーとプレ製品キーのみを更新およびコピーできます。ただし、アプリケーションが [Live] 状態の場合は、製品キーのみを更新およびコピーできます。
6. 新しい API キーが生成されます。[Copy] をクリックして、生成された API キーをコピーします。
  7. [Save] をクリックして、変更内容を保存します。
  8. アプリケーションに移動し、生成およびコピーした新しいアプリケーションの API キーを貼り付けます。

## 次のタスク

アプリケーションの横にある省略記号アイコン (...) をクリックすると、（アプリケーションのステータスに応じて）次のような追加のオプションが表示されます。

- [View] : アプリケーションを表示し、その設定と詳細を確認します
- [Edit] : アプリケーションの設定または詳細を編集します
- [Preview App] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターでアプリケーションがどのように表示されるかを確認します
- [Test] : アプリケーションをテストします
- [Submit app] : レビュー用にアプリケーションを送信します
- [Update app] : ライブアプリケーションを更新します
- [App Activations] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードのアプリケーションのアクティベーションに関する詳細（顧客名、アクティベーションされた場所、最後にアクティベーションが行われた日付など）を表示します。

このオプションは、アプリケーションが [Live]、[Approved]、または [Coming soon] のステータスの場合にのみ表示され、アプリケーションが [Draft]、[Testing]、または [Submitted] のステータスの場合はアクティビ化できません。

- [Make a copy of app] : アプリケーションを複製します。

コピーされたアプリケーションが元のアプリケーションと異なるリージョン用である場合、元のアプリケーションと同じ名前を保持できます。ただし、元のアプリケーションと同じリージョンにアプリケーションのコピーが必要な場合は、コピーしたアプリケーションの名前を変更する必要があります。そうしないと、「Partner app name already exists: <app name>」というエラーメッセージが表示されます。

- [Delete app] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターからアプリケーションを削除します。

詳細については、[アプリケーションの削除（72 ページ）](#) を参照してください。

- [Trace Firehose] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードからアプリケーションの Firehose データを表示またはダウンロードします。

詳細については、[Trace Firehose（10 ページ）](#) を参照してください。

## マルチテナントクラウドパートナー アプリケーションのアクティビ化

Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターには、パートナーによって作成されたアプリケーションが表示されます。Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターを使用すると、お客様は、利用可能なパートナー アプリケーションを参照したり、目的のアプリケーションをアクティビ化したり、利用可能なパートナー アプリケーションの機能を活用したりできます。アプリケーションを次の 2 つの方法でアクティビ化します。

- パートナーは、最初にアプリケーション アクティベーション サンドボックスでアプリケーションをアクティビ化してから、承認のためにそのアプリケーションを送信する必要があります。送信されたアプリケーションが Cisco Spaces サポートチームによって承認された後は、管理者またはユーザーがアプリケーションを公開し、Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターで利用可能にすることができます。
- お客様は、Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターからアプリケーションをアクティビ化することもできます。

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードでマルチテナントクラウドパートナー アプリケーションをアクティビ化するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ 2** [App Activation Sandbox] タイルをクリックします。

(注)

## マルチテナント クラウドパートナー アプリケーションのアクティブ化

以前にアプリケーションをアクティブ化しているが、このアプリケーションで新しいイベントに登録している場合、アプリケーションタイルに「New Permissions Required」の通知が表示されます。特定のアプリケーションタイルをクリックし、新しいイベントの権限を確認し、[Accept Permission] を選択します。

[Accept Permission] を選択すると、選択したアプリケーションで新しいイベントに登録され、このイベントも Cisco Spaces - Partner Firehose API を介して送信されます。

**ステップ3** [EXTEND] セクションの下にある [Get Partner Apps] タイルをクリックします。

(注)

[App Activation Sandbox] は、作成したアプリケーションのみが表示されます。

**ステップ4** 目的のアプリケーションをクリックして、関連する詳細を表示します。

**ステップ5** [Activate App] をクリックします。

アプリケーションのアクティベーション ウィザードが表示されます。

**ステップ6** パートナー アカウントを持っているかどうかに応じて、[Sign Up & Onboarding] で適切なオプションを選択し、[Continue] をクリックします。

(注)

[Permissions] ページが表示されます。

**ステップ7** [Accept Permission] をクリックして続行します。

[Permissions] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成時に選択した [Event Types] および [Event Settings] によって異なります。お客様は、[Location] および [Telepresence] データへのアクセスを承認し、アプリケーションが動作のために MAC アドレスを必要とする場合、デバイスの MAC アドレスを共有することに同意する必要があります。

[Permissions] ページで、[Telepresence] セクションは、アプリケーションの作成時に [Telepresence Event Type] オプションを選択した場合にのみ表示されます。詳細については、「Event Types」を参照してください。

[Choose Locations] ページが表示されます。

**ステップ8** このアプリケーションを有効にしてアクティブ化するロケーションを選択します。アプリケーションの作成中に設定された IoT サービスに関連するイベントの選択に応じて、[Next] または [Select & Activate] ボタンが表示されます。

- [Next] ボタンが表示された場合は、[ステップ9 \(32 ページ\)](#) に移動します。

- [Select & Activate] ボタンが表示された場合は、[ステップ10 \(33 ページ\)](#) に移動します。

**ステップ9** [Next] をクリックします。

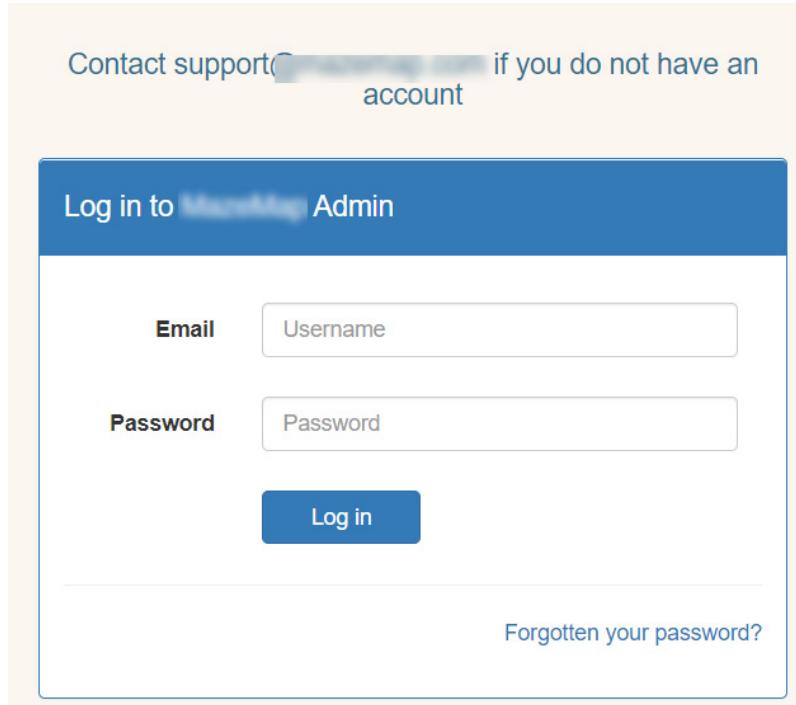
この [Next] ボタンと [Choose Groups] ページは、アプリケーションの作成時に、[Events] タブで [IoT Telemetry] および [IoT User Action] の中から IoT サービス関連イベントを少なくとも 1 つ選択した場合にのみ、[App Activation] ウィザードに表示されます。詳細については、「Event Types」を参照してください。

[Choose Groups] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成中に選択された上記の IoT サービス関連イベントによって異なります。

[Choose Groups] ページが表示されます。

**ステップ 10** [Select & Activate] をクリックしてアプリケーションをアクティビ化します。

お客様がサイトにリダイレクトされます。



お客様がアカウントを持っていない場合、トライアルアカウントにサインアップできるようにすることを推奨します。サインアップしてログインすると、お客様は Cisco Spaces にリダイレクトされます。

アプリケーションに、アプリケーションのアクティベーション用に設定された認証サイトがない場合は、アプリケーションのアクティベーションを行うためにシスコ認証サイトを使用することができます。[Select & Activate] をクリックすると、Trigue のログインページにリダイレクトされます。admin@trigue.proximitymx.io を [User name] として入力し、admin を [Password] として入力して、Trigue のサイトにログインします。サイトにログインし、パートナーテナント ID を入力して送信すると、アプリがアクティビ化されます。

**ステップ 11** OAuth ログイン認証統合がアプリケーションによって実装されている場合、Cisco Spaces はアプリケーションからアカウントの詳細を取得し、Cisco Spaces テナント ID とアカウント識別子間のマッピングをセットアップします。

**ステップ 12** これでアプリケーションがアクティビ化されました。Cisco Spaces ホームページの下にパネルとして追加されています。お客様は、このパネルをクリックすると、Cisco Spaces ダッシュボードからアプリケーションにアクセスできます。

Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターでは、OAuth ログイン認証メカニズムを使用して、パートナーがアプリケーションのアクティベーションと使用を許可する前にお客様のアプリケーションを検証できるようにしています。

## クラウド : OAuth 統合

以下に、OAuth認証を使用したクラウドパートナーアプリのアクティベーションAPI統合の手順を示します。

1. Cisco Spaces はユーザークエリをパートナーサイト（パートナーの OAuth URL）にリダイレクトします。これには、client\_id、redirect\_uri、response\_type、および state クエリパラメータが含まれます。
2. ユーザー認証に成功すると、パートナーサイトは redirect\_uri と承認コードおよび state パラメータを使用してCisco Spaces - パートナーダッシュボードにリダイレクトされます。
3. 承認コードでリダイレクトされる際、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードはパートナーサイトで実行されている API (<\$OAuth Login URL>) と、次のパラメータを含む JSON ペイロードが呼び出されます。
  - ・「code」 : <Alpha Numeric value Received from Partner Site> 例 : C8AB554D6F804B8EB6246D44D3DE4B46
  - ・「grant\_type」 : authorization\_code
  - ・「state」 : <Alpha Numeric UID> 例 : 0855E7EFE7124B538D455F0C5CEF2629
  - ・「client\_id」 : <Partner App Client ID>
  - ・「client\_secret」 : <Alpha Numeric value> 例 : 31e08c21136c9102cdee
  - ・「redirect\_uri」 : <https://partners.dnaspaces.io/partner/OAuthValidation>



(注) ライブアプリケーションの場合、リダイレクト URI は <https://dnaspaces.io/partner/OAuthValidation> になります。

4. ステップ 3 で予想される応答は、次の属性を持つ JSON オブジェクトです。
  - ・「access\_token」 - <This is a JWT Token, will be used to invoke App Info API>
  - ・「token\_type」 - 「Bearer」
  - ・「scope」 - <partnerTenantID>

Cisco Spaces では、OAuth 2.0 を使用してパートナーダッシュボードとの統合を容易にし、アプリケーションのアクティベーションのためにお客様を認証して、アプリケーションを起動するために署名付き JSON Web トークン (JWT) 認証を使用します。Cisco Spaces にログインして、

[Partner Apps] タイルをクリックすると、パートナー アプリケーション アクセス センターに使用可能なアプリケーションが表示されます。Cisco Spaces でアプリケーションを選択すると、関連付けられたアプリケーションの詳細が表示されます。開きたいアプリケーションをクリックします。[Activate] ボタンをクリックすると、ユーザーは `client_id`、`redirect_url`、`response_type`、および `state` クエリ パラメータとともにパートナー OAuth URL にリダイレクトされます。パートナーサイトは、`client_id` および `redirect_url` クエリ パラメータを確認し、ユーザーをパートナーサイトのログイン ページに誘導する必要があります。クエリ パラメータが無効な場合、`configuration-mismatch` エラーが表示されます。



(注) [OAuth Login URL] は、[Partner App] > [App Tile] セクションで設定します。HTTPS プロトコルを使用していることを確認します。

[Partner OAuth URL] : <\$OAuth Login URL>

[Query-Params] :

- 「`client_id`」 - <Partner App Client ID>
- 「`redirect_uri`」 - <https://partners.dnaspaces.io/partner/OAuthValidation>
- 「`response_type`」 - コード
- 「`state`」 - <Alpha Numeric UUID> 例 : 0855E7EFE7124B538D455F0C5CEF2629

データ パラメータ	説明	使用可能な値
<code>client_id</code>	<code>client_id</code> パラメータは、OAuth リクエストの送信元を特定するために使用されます。パートナーは、Cisco Spaces によって行われた OAuth 認証 コール中に、検証のために一意の <code>client_id</code> を Cisco Spaces に提供します。	文字列
<code>redirect_uri</code>	ログインが正常に完了すると、パートナーサイトから Cisco Spaces ダッシュボードへリダイレクトされます。 <code>redirect_url</code> は事前設定された URL であり、パートナーダッシュボードの [App Tile] セクションで確認できます。検証後、パートナーサイトは <code>redirect_uri</code> にユーザーをリダイレクトします。このリダイレクトには、 <code>state</code> および <code>code</code> のクエリ パラメータが含まれます。 <code>code</code> の値は、パートナーサイトによって生成されます。	付与タイプ
<code>response_type</code>	ログイン検証に成功した後に予想される応答 タイプを示します。Cisco Spaces の場合、予想される応答 タイプは <code>code</code> です。	数値
<code>state</code>	Cisco Spaces は、リダイレクト URL を呼び出すときに返される UUID を渡します。例 : 0855E7EFE7124B538D432F0C5CEF2629	英数字

## アクセストークンの取得

アクセストークンの取得は、OAuth 承認を開始するためにCisco Spaces - パートナーダッシュボードからパートナーサイトに送信される API コールです。承認コードを受信すると、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードは <\$OAuth Token URL> API を呼び出してアクセストークンを取得します。アクセストークンエンドポイントは、リクエストの一部として送信される JSON ペイロードパラメータを検証する必要があります。コードの有効期限が切れていないことを確認しながら、**client\_id** および **client\_secret** の値が、[Partner App] > [App Tile] メニューで定義された値と一致しているかどうかを確認する必要があります。

メソッド : POST



(注) OAuth トークン URL は、[Partner App > App Tile] セクションで設定します。HTTPS プロトコルを使用していることを確認します。

API エンドポイント : <\$OAuth Token URL>

クライアントタイプ : application/x-www-form-urlencoded

JSON ペイロード :

- 「code」 - <Alpha Numeric value>

例 : C8AB554D6F804B8EB6246D44D3DE4B46

- 「grant\_type」 - authorization\_code.

「state」 - <Alpha Numeric UUID> 例 : 0855E7EFE7124B538D455F0C5CEF2629

- 「client\_id」 - dnaspaces

- 「client\_secret」 - <Alpha Numeric value>

例 : 31e08c21136c9102cdee

- 「redirect\_uri」

- 米国の場合 : <https://partners.dnaspaces.io/partner/OAuthValidation>

- EU の場合 : <https://partners.dnaspaces.eu/partner/OAuthValidation>

- シンガポールの場合 : <https://partners.ciscospaces.sg/partner/OAuthValidation>

データパラメータ	説明	使用可能な値
code	承認コードは、クライアントがアクセストークンと交換する一時的なコードです。	文字列
grant_type	これは、アプリケーションが authorization_code 付与タイプを使用していることを示しています。	付与タイプ

state	Cisco Spaces は、リダイレクト URL を呼び出すときに返される UUID を渡します。例： 0855E7EFE7124B538D432F0C5CEF2629	英数字
client_id	Cisco Spaces アプリケーションのパブリック識別子。	英数字
client_secret	client_secret により、トークンへのアクセス要求を Cisco Spaces からのみ受信するようになります。	英数字
redirect_uri	認証後に指定された URI にユーザーをリダイレクトするよう にパートナーサイトに通知します。	有効な URI

#### 例：リクエストペイロード

```
{
  "code": "C8AB554D6F804B8EB6246D44D3DE4B46",
  "grant_type": "authorization_code",
  "state": "0855E7EFE7124B538D455F0C5CEF2629",
  "client_id": "dnaspaces",
  "client_secret": "31e08c21136c9102cdee",
  "redirect_uri": "https://partners.dnaspaces.io/OAuthValidation"
}
```

#### 例：応答形式

```
{
  "access_token": "<$JWT>",
  "token_type": "Bearer",
  "scope": "<partnerTenantID>"
}
```



(注) scope パラメータは、パートナーによって維持されるお客様のテナント ID を指します。  
access\_token パラメータは、パートナーテナント ID、電子メールなどのパートナーの情報を使用してパートナーによって生成された JSON Web トークン (JWT) を指します。

## アプリケーション情報の取得

OAuth 承認が成功すると、Cisco Spaces は appInfo API リクエストを呼び出し、先ほど取得したアクセストークン値を渡すことによって、パートナーサイトからアプリケーション情報を取得します。

メソッド : GET



(注) 注：アプリケーション情報 URL は、[Partner App]>[App Tile] セクションで設定します。HTTPS プロトコルを使用していることを確認します。

API エンドポイント : <\$App Info URL>

パス : appInfo

## パートナー アプリケーション ダッシュボードの起動 - 自動ログイン

コンテンツタイプ : application/json

承認 : Bearer <access\_token>

access\_token : <JWT-token>

次に例を示します。

```
eyJ1bWFpbCI6InN1cmVuZHZJuQGNpc2NvLmNvbSISImN1c3RvbWVyIjoiVHJpZ3V1IiwidmVyIjoi
djEiLCJ1aWQiOiJDOEFCNTU0RDZGODA0QjhFQjYyNDZENDREM0RFNEI0NiIsImhdCI6MTU1MzU5MjE5OSwi
3JpZ2luYWxfaWF0IjoxNTUzNTky5LCJleHAiOjE1NTM1OTgxOTI9.CMB8AVaAybKM5aMSXc9K-HVpf8Yh
I_uvfMe1XVFyZu002LK_ph17xAnPRTYQPTam_P61g2pkfWNvvvmeQSYPbA
```



(注) access\_token : <JWT-token> は、Get Access token API 応答の一部です。

クエリパラメータ : partnerTenantId : <Customer account ID maintained by the Partner>

データパラメータ	説明	使用可能な値
Bearer : access_token	Bearer トークンは、Cisco Spaces サーバーによって生成および署名された JWT であり、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードからダウンロードしたパブリック証明書で検証できます。	文字列
partnerTenantId	accountId パラメータは、パートナーによって維持されるお客様の一意の識別子です。	文字列

応答形式 :

```
{
  "partnerTenantId": "<partnerTenantID>",

  "userEmail": "johndoe@cisco.com",

  "supportEmail": "support@<partner-name>.com"

}
```

Note:

The supportEmail parameter is an optional.

The userEmail parameter can be extracted from the JWT token.

## パートナー アプリケーション ダッシュボードの起動 - 自動ログイン

アプリケーションをアクティビ化した後、シームレスログイン（自動ログイン）機能により、お客様は Cisco Spaces ダッシュボードからアプリケーションを起動できるようになります。パートナーのアプリケーション ダッシュボードにリダイレクトされます。パートナーサイトは、ログインしているユーザーを検証して、ユーザーがアプリケーションを起動するための適切な権限を持っていることを確認する必要があります。パートナーサイトは、この検証にユーザーの

Cisco Spaces アカウントの電子メール (JWT トークンからの userId パラメータ) を使用できます。

Cisco Spaces ダッシュボードで、アクティビ化されたアプリケーションタイルをクリックすると、パートナーのアプリケーションダッシュボードが新しいブラウザウィンドウに表示されます。JWT トークンがパートナーのアプリケーションダッシュボードに送信され、シームレスなログインがプロビジョニングされます。

メソッド : POST



(注) アプリケーションダッシュボード URL は、[Partner App > App Tile] セクションで設定します。  
HTTPS プロトコルを使用していることを確認します。

パートナー アプリケーション ログイン URL : <App Dashboard URL>

コンテンツタイプ : application/json

データの送信 : トークン : <JWT token>、バージョン : <Public key version>、appId : <appId>

データパラメータ	説明	使用可能な値
token	Cisco Spaces は JWT トークンを生成し、アプリケーション固有の秘密キーを使用してデジタルで署名します。トークンを検証するために、パートナーサイトはパートナー公開キー API を呼び出してアプリケーション固有の公開キーを取得できます。	文字列
version	アプリケーション固有の公開キーを指します。	文字列
appId	アプリケーションの固有識別子を指します。	文字列

例 : 応答形式

```
{
  "token": "eyJ0eXAiOiJKV1QiLCJhbGciOiJSUzI1NiJ9.eyJ2ZXJzaW9uIjoidjEsYXBwLTY4QkZDMTk0RkYzNzQwNjk4MUMyN0Q1NUZENDQ5NzRCIiwidGVuYW50SWQiOjQyMCwidXN1ckNlC3RvbWVvSWQiOjUcm1ndWUiLCJlC2VvSWQiOjIzJdXJ1bmRybkbjaXNjby5jb20iLCJpYXQiOjE1NTM1OTU3MzsImV4cCI6MTU1MzU5NzUzOH0.ILAkDKZEHY9S2dcqYDi4xwDLJvVnpoe4QDLtUDGNu90NzjKJkOdA9L14vjNd4G6DOWdW_yfRk2tpbMoWARSunqwGikQhmQu_cSfXyqGS_AATAnx_zAbjxJvPNeJQ1NKKwT9FpeuTdyHN3BfUuni00VZCtWPYEB-91C6dPQ92pfQ",
  "version": "<version of the public key>",
  "appId": "<Unique Identifier of the Application>"
}
```

## シングルテナント クラウドパートナー アプリケーション

### シングルテナント クラウドパートナー アプリケーションの作成

シングルテナント クラウドパートナー アプリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ1** <https://partners.dnaspaces.io/home> に移動して、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。
- ステップ2** [Partner Apps] セクションの下にある [Create New App] タイルをクリックします。[Choose App Type] ダイアログボックスに、[Multi Tenant Cloud]、[Single Tenant Cloud]、および [On-Prem] オプションが表示されます。
- ステップ3** [Single Tenant Cloud] を選択します。
- ステップ4** [Create] をクリックします。[App Center]、[Uses Cases]、[App Tile]、[Behaviors]、[Events]、および [Integration Details] タブが表示されます。これらの各タブでは、アプリケーションの詳細を設定できます。
- ステップ5** デフォルトでは、[App Center] タブが表示されます。
- 目的の地域を選択します。ヨーロッパ地域用のアプリケーションを作成、アクティビ化、公開、および管理するには、[Europe Region] オプションを選択します。それ以外の場合は、[Rest of the World (Except Europe region)] オプションを選択します。
  - 関連する [App Name] を入力します。
  - アプリケーションに関連する [App Tagline] を入力します。
  - [Choose File] ボタンをクリックして、[App Icon] の画像を選択してアップロードします。
  - 関連する [App Description] を入力します。
  - アプリケーションの [Primary Industry] を選択します。
  - アプリケーションが特定のビジネスセグメントに適用される場合は、[More Industries] セクションで以下の関連するチェックボックスをオンにします。[Retail]、[Hospitality]、[Health Care]、[Manufacturing]、[Education]、[Financial Services]、[Venues]、[Workspaces]、[Real estate]、[Others]。
  - [Developer Info]、[Support Contact]、[Sales Contact]、[App Media] セクションには、[Company Logo]、[Company Name]、[Company Website]、[Support Contact]、[Support Email]、[Sales Phone]、[Sales Email]、[Screenshots]、および [Youtube Video URL] などの詳細情報を含めることができます（オプション）。
    - [Developer Info] セクションで、[Choose File] をクリックして、アプリケーションデベロッパーの会社ロゴをアップロードします。
    - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Name] を入力します。
    - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Website] を入力します。
    - [Developer Info] セクションで、[Choose File] をクリックして、アプリケーションデベロッパーの会社ロゴをアップロードします。
    - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Name] を入力します。
    - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Website] を入力します。

- 必要に応じて、[Support Contact] セクションで [Support Phone] の番号を入力します。
  - 必要に応じて、[Support Contact] セクションで [Support Email] のアドレスを入力します。
  - 必要に応じて、[Sales Contact] セクションで [Sales Phone] の番号を入力します。
  - 必要に応じて、[Sales Contact] セクションで [Sales Email] のアドレスを入力します。
  - 必要に応じて、[App Media] セクションで、ローカルドライブからアプリケーションのスクリーンショットを [Drag & drop] でアップロードするか、[Click here to upload] リンクをクリックしてアプリケーションのスクリーンショットを選択してアップロードします。
  - アプリケーションの動画 URL を保存する場合は、[Youtube Video URL] を入力し、[Save] をクリックします。
- ステップ6** [Use Cases] タブをクリックします。
- ステップ7** 1つまたは複数のユースケースを追加する場合は、[Add a Use Case] ボタンをクリックします。
- 関連する [Use Case Headline] を入力します。
  - [Choose File] ボタンをクリックして、[Use Case Icon] を選択してアップロードします。
  - 関連する [Use Case Short Description] を入力します。
  - オプションの [Use Case Long Description] を入力します（ある場合）。
  - オプションの [Compatibility Notes] を入力します（ある場合）。
  - 関連する [Use Case Category] を選択します。使用可能なオプションは、[Analytics]、[Captive Portal]、[Marketing & Engagement]、[Asset Management]、[Wayfinding]、[Mapping]、[Others] です。ユースケースが使用可能なカテゴリのいずれにも属していない場合は、[Others] を選択します。
  - [Who is this use case applicable to]、[What value does this drive for the customer?] の質問に対して他のオプションのユースケースオプションを入力します。
  - 必要に応じて、適切な [Infrastructure Compatibility] のオプションを選択します。
  - 必要に応じて、関連する [Screenshots] および [Youtube Video URL] をアップロードします（ある場合）。
  - [Save] をクリックして、変更内容を保存します。
  - [Add Another Use Case] ボタンをクリックして、ユースケースを追加します。
- ステップ8** [App Tile] タブをクリックします。[App Tile Configuration] セクションが表示されます。
- 関連する [APP Tile Label] を入力します。
  - 目的の [App Tile Tagline] の説明を入力します。
  - 必要に応じて、[App Activation Instructions] ウィンドウに関連する手順を入力します。
- ステップ9** [Behaviors] タブをクリックします。新規のお客様の自動サインアップをサポートする場合は、[App Behaviors] セクションに詳細を入力します。
- [NEW CUSTOMER ONBOARDING] セクションでは、新規のお客様のサインアップ用のリダイレクト URL を入力できます。[Sign Up URL] フィールドにリダイレクト URL を入力します。

- b) [Contact Company Info] フィールドに正しいアドレスを入力します。
- c) お客様がアプリケーションを削除するときに詳細を表示できるようにするには、[Delete App Confirmation] フィールドに詳細を入力します。URL で <https://> プロトコルが使用されていることを確認します。
- d) アプリケーションモニタリング設定は、Cisco Spaces がアプリケーションの正常性と稼働時間ステータスをモニターしてレポートするのに役立ちます。[APP MONITORING] セクションで、[App Health Check URL]、[API Health Status URL]、および [App Status Page URL] フィールドに正しいリンクアドレスを入力します。アプリケーションモニタリング URL を入力する場合は、<https://> プロトコルを使用してください。詳細については、[パートナー アプリケーションの正常性のモニター \(69 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 10** [Events] タブをクリックします。使用可能なアプリケーションの [Events Types] と [Event Settings] が一覧表示されます。

[Event Types] 画面に一覧表示されるイベントは、アプリケーションのアクティベーションの発生時点から、デバイスが存在し、他のさまざまなイベントタイプのデータが収集されるまで順番にトリガーされます。各イベントタイプは、特定のアクティビティが発生するとトリガーされます。

- ・例：お客様が初めてパートナー アプリケーションをアクティブ化すると、お客様がアプリケーションをアクティブ化したなどの情報の更新により、アプリケーション アクティベーション イベントがバックグラウンドでトリガーされます。
- ・次に、ロケーション情報の変更イベントがトリガーされ、ロケーション階層で構成されているさまざまなロケーションでのすべてのアクティベーションのロケーション変更情報が提供されます。
- ・Wi-Fi ロケーションのインフラストラクチャがセットアップされている場合、訪問者が SSID に接続すると、デバイスのロケーションの更新を受信します。
- ・ただし、デバイスが初めて SSID に接続した場合は、入場時にデバイス プレゼンス イベント情報も受信します。訪問者のデバイスがユーザー ID に関連付けられている場合は、ユーザー プレゼンス イベント タイプを受信します。ユーザーのデバイスの状態に基づいて、その他のイベントデータ情報を受信します。例：ユーザー デバイスがパッシブであるか、指定された 10 分間にわたってデバイスの更新がない場合、ユーザー プレゼンス と デバイス プレゼンス の両方のイベント情報が非アクティブとして示されます。例：訪問者がモバイル デバイスとラップトップなど、一度に複数のデバイスを持ってロケーションに入り、両方のデバイスでロケーションの更新が 10 分間受信されていない場合、ユーザー プレゼンス と デバイス プレゼンス のイベントは非アクティブとして示されます。
- ・いずれかのデバイスがロケーションでアクティブになると、ユーザー プレゼンス と デバイス プレゼンス のイベントステータスが自動的にアクティブに変わります。いずれかのデバイスまたは両方のデバイスがより長い期間または指定された時間間隔で非アクティブになると、デバイス プレゼンス イベントがトリガーされます。
- ・ビジネス ロケーションに TelePresence デバイスが設定されている場合、その TelePresence デバイスは、組み込みセンサーを使用して、部屋内の **人数占有率** と **人数カウント** のデータを送信します。**人数カウント** データは概算ですが、**人数占有率** データは正確です。変更が特定されるたびに、システムは更新されたデータを自動的に送信します。

## (注)

適用可能でビジネスユースケースに必要なイベントタイプのみを選択することを強く推奨します。これにより、イベント数は制限され、不要なシステムオーバーヘッドは回避されます。具体的には、**BLE 更新**、**およびデバイス RSSI 更新**イベントは、TelePresence デバイスを Cisco Spaces とやり取りするように設定している場合にのみ登録する必要があります。これにより、受信するイベントの数を制限し、不要なオーバーヘッドを回避できます。

- a) 表示される使用可能な [Event Types] は次のとおりです。

- [Device Entry] : このイベントは、デバイスがロケーションに入場したときに送信されます。

## 注目

[Device Entry] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

[Device Entry] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Device Exit] : このイベントは、デバイスがロケーションから退出したときに送信されます。

## 注目

[Device Exit] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Profile Update] : このイベントは、デバイスプロファイルが更新されたときに送信されます。たとえば、エンドユーザーがキャプティブポータルで情報を提供すると、送信されます。

- [Location Information Change] : このイベントは、ロケーションが更新または変更されたときに送信されます。たとえば、ロケーションがグループの下に移動したり、ロケーションの名前が変更されたり、ロケーションのメタデータが変更された場合です。

- [TelePresence] : このイベントは、TelePresence システムで人数カウントの更新があったときに送信されます。

## 注目

[TelePresence] イベントは廃止され、Telepresence の更新の拡張バージョンである [Webex Telemetry] イベントに置き換えられました。

- [Device Location Update] : このイベントは、デバイスのロケーションが更新されたときに送信されます。[Receive Geo Coordinates] オプションをオンにすると、デバイスの緯度および経度の座標が、デバイスの X および Y 座標データとともに受信されます。

- [App Activation] : このイベントは、お客様がアプリケーションをアクティベートしたときに送信されます。

- [Account Admin Change] : このイベントは、パートナー アカウントのアカウント管理者が追加、削除、または更新されたときに送信されます。
- [Device Presence] : ロケーションでのデバイスのライフサイクルを追跡するために使用されます。デバイスが入場したとき、デバイスが10分間非アクティブになったとき、デバイスが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはデバイスが退出したと判断したときにイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロケーションにあるアクティブなデバイスと非アクティブなデバイスの数も提供します。
- [User Presence] : 使用中の利用可能な認証とネットワークから入手可能な情報に基づいて、Cisco Spaces はユーザーが所有するグループの複数のデバイスをマッピングできます。ユーザーが入場したとき、ユーザーが10分間非アクティブになったとき、ユーザーが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはユーザーが退出したと判断したときにイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロケーションにあるアクティブなユーザーと非アクティブなユーザーの数も提供します。
- [IoT Telemetry] : このイベントは、BLE、RFID、および Zigbee IoT デバイスからのテレメトリの更新があったときに送信されます。
- [IoT User Action] : このイベントは、IoT デバイスでユーザー アクションが実行されたときに送信されます。
- [Device Count] : このイベントは、ロケーションにあるデバイスの（カウント）数に変化があったときに送信されます。
- [Webex Telemetry] : このイベントは、ロケーションで Webex デバイスからのテレメトリがあったときに送信されます。

(注)

このイベントを利用するには、Cisco Spaces ACT ライセンスが必要です。

- [Device Association] : このイベントは、デバイスが指定されたロケーションで接続されたときに送信されます。デバイスの詳細には、デバイス ID、ロケーションの詳細、SSID、およびユーザーに関連付けられたその他の情報が含まれます。

(注)

- 詳細については、<https://developer.cisco.com/docs/cisco-spaces-firehose/api/> を参照してください。
- アプリのアクティブ化中に、IoT サービスで定義されたグループを表示できるようになりました。ただし、これらのグループは、次のイベントのいずれかを選択した場合にのみ表示されます。

• **IOT\_TELEMETRY**

• **IOT\_USER\_ACTION**

アプリのアクティブ化中に選択したグループを管理するには、[Activation] ウィンドウで、[Groups] タブをクリックします。ここで、グループを追加または編集できます。

## (注)

- この機能を使用するには、指定した Cisco Spaces アカウントの IoT サービスを有効にする必要があります。この機能を使用するには、Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボード for EXTEND アカウントの両方から IoT サービスを有効にする必要があります。
- Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方で実行されたアクティベーションのアプリのアクティベーション中に、上記のグループを確認できます。

## b) [Event Settings] セクションで、目的のロケーションのオプションをオンにします。

- [Choose Locations] で、Cisco Spaces - ロケーション階層で指定されたさまざまなロケーションレベルについて、上記のイベントタイプデータを受信することを選択できます。Cisco Spaces 内のロケーション階層は、物理的または地理的なビジネス階層にのみ対応するのではなく、ビジネスニーズと組織階層に対応するようにセットアップできます。

Cisco Spaces では、メインまたは [Root Level] を定義することによって、ビジネス組織の階層を設定できます。このレベルには、1 つ以上の [Group] および [Network] レベルを含めることができます。各ネットワークレベルには 1 つ以上のフロアを含めることができ、各フロアレベルには 1 つ以上のゾーンを含めることができます。アクセスポイントは、さまざまなゾーンに関連付けることができます。

- アプリケーションを使用可能にして、すべてのビジネスロケーションからイベントデータを受信する場合は、[All Location Types] をオンにします。
- アプリケーションを使用可能にして、選択した特定のロケーションタイプからのみイベントデータを受信する場合は、[Location Types] オプションをオンにします。使用可能なロケーションタイプは、[RootLevel]、[Groups]、[Network]、[Floor]、および [Zone] です。

## (注)

[Network]、[Floor]、または [Zone] レベルのみなど、ロケーション階層の特定のレベルでのみ運用している場合、不要なシステムオーバーヘッドを回避するために、その特定のレベルについてのみイベントデータを受信することを強く推奨します。Cisco Spaces - ロケーション階層のすべてのレベルの情報を処理する必要がある場合にのみ、[All Location Types] オプションを選択してください。

- 目的のロケーションタイプを選択します。
- 上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードにデバイスの MAC アドレスが含まれています。[MAC Address Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンにすると、クライアントの MAC アドレスおよび関連するイベントの詳細を受信するようになります。MAC アドレスの共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ビジネス要件でデバイス ID

のみが必要な場合は、Cisco Spaces が提供するデバイス ID のイベントタイプデータをデバイス関連のすべてのイベントとともに使用できます。

- 上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードでソーシャル識別子の共有データが含まれます。[Social Identifier Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンになると、ソーシャル識別子の共有データおよび関連するイベントの詳細を受信するようになります。ソーシャル識別子の共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ソーシャル識別子の共有データの処理または保存中にデータプライバシーの問題を回避する場合は、[No] オプション（デフォルトでオンになっています）を選択できます。
- おそらく一部のパートナーでは、ワイヤレスネットワークインフラストラクチャが完全にセットアップされておらず、受信したデータを分析するために上記のイベントタイプ情報を受信するように設定されていない場合があります。上記のイベントから受信される一般的なサンプルデータを一目で確認するには、[Receive Simulation Events] オプションに関連付けられている [Yes] オプションを選択します。シスコからサンプルのダミーデータを受信するようになります。

(注)

- [Simulation Events] の一部として提供されるデータは、ダミーデータのみです。このサンプルデータは、他のイベントまたは API 間での相互運用性または完全性を保証するものではありません。
- シミュレーションデータは US ドメインでのみ使用できます。

シスコからダミーのシミュレーションイベントデータを受信しない場合は、[No] をオンにします。

右側の [Permissions] および [Location Permissions] セクションには、アプリケーションのアクティベーション中にお客様から要求される権限のタイプに関する情報が表示されます。権限は、選択したイベントタイプに基づきます。たとえば、デバイスの MAC アドレスを収集する場合、アプリケーションはお客様の MAC 固有の権限を要求します。これらの権限は、選択したイベント、ロケーション、およびプライバシー設定に基づきます。

**ステップ 11** [Integration Details] タブで、目的の [Integration Types] の詳細を選択します。

a) [Pull Channels] セクションでは、次のオプションから選択できます。

- [HTTP] : ストリーミング HTTP 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。
- [gRPC] : ストリーミング gRPC コールを介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。
- [Websocket] : ストリーミング Websocket 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。

(注)

詳細については、「[Pull Channels](#)」セクションを参照してください。

**ステップ12** [Create] をクリックしてアプリケーションを作成します。

### 次のタスク

アプリケーションの横にある省略記号アイコン (...) をクリックすると、(アプリケーションのステータスに応じて) 次のような追加のオプションが表示されます。

- [View] : アプリケーションを表示し、その設定と詳細を確認します
- [Edit] : アプリケーションの設定または詳細を編集します
- [Preview App] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターでアプリケーションがどのように表示されるかを確認します
- [Test] : アプリケーションをテストします
- [Submit app] : レビュー用にアプリケーションを送信します
- [Update app] : ライブアプリケーションを更新します
- [App Activations] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードのアプリケーションのアクティベーションに関する詳細 (顧客名、アクティブ化された場所、最後にアクティベーションが行われた日付など) を表示します。

このオプションは、アプリケーションが [Live]、[Approved]、または [Coming soon] のステータスの場合にのみ表示され、アプリケーションが [Draft]、[Testing]、または [Submitted] のステータスの場合はアクティブ化できません。

- [Make a copy of app] : アプリケーションを複製します。

コピーされたアプリケーションが元のアプリケーションと異なるリージョン用である場合、元のアプリケーションと同じ名前を保持できます。ただし、元のアプリケーションと同じリージョンにアプリケーションのコピーが必要な場合は、コピーしたアプリケーションの名前を変更する必要があります。そうしないと、「`Partner app name already exists: <app name>`」というエラーメッセージが表示されます。

- [Delete app] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターからアプリケーションを削除します。

詳細については、[アプリケーションの削除 \(72 ページ\)](#) を参照してください。

- [Trace Firehose] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードからアプリケーションの Firehose データを表示またはダウンロードします。

詳細については、[Trace Firehose \(10 ページ\)](#) を参照してください。

## シングルテナントクラウドパートナー アプリケーションのアクティブ化

シングルテナントクラウドパートナー アプリケーションを作成したら、次のステップは、アクティベーション (JWT) トークンを生成、使用して、シングルテナントクラウドパートナー アプリケーションをアクティブ化することです。

### 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [App Activation Sandbox] タイルをクリックします。

**ステップ3** [EXTEND] セクションの下にある [Get Partner Apps] タイルをクリックします。

(注)

以前にアプリケーションをアクティブ化しているが、このアプリケーションで新しいイベントに登録している場合、アプリケーションタイルに「New Permissions Required」の通知が表示されます。特定のアプリケーションタイルをクリックし、新しいイベントの権限を確認し、[Accept Permission] を選択します。

[Accept Permission] を選択すると、選択したアプリケーションで新しいイベントに登録され、このイベントも Cisco Spaces - Partner Firehose API を介して送信されます。

**ステップ4** 目的のアプリケーションをクリックして、関連する詳細を表示します。

(注)

作成したアプリケーションのみが、[App Activation Sandbox] に表示されます。

**ステップ5** [Activate App] をクリックします。

アプリケーションのアクティベーション ウィザードが表示されます。

**ステップ6** パートナーアカウントを持っているかどうかに応じて、[Sign Up & Onboarding] で適切なオプションを選択し、[Continue] をクリックします。

[Permissions] ページが表示されます。

**ステップ7** [Accept Permission] をクリックして続行します。

[Permissions] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成時に選択した [Event Types] および [Event Settings] によって異なります。お客様は、[Location] および [Telepresence] データへのアクセスを承認し、アプリケーションが動作のために MAC アドレスを必要とする場合、デバイスの MAC アドレスを共有することに同意する必要があります。

[Permissions] ページで、[Telepresence] セクションは、アプリケーションの作成時に [Telepresence Event Type] オプションを選択した場合にのみ表示されます。詳細については、「Event Types」を参照してください。

[Choose Locations] ページが表示されます。

**ステップ8** イベントデータを受信するために、このアプリケーションを有効にしてアクティベーションするロケーションを選択し、[Next] をクリックします。

アプリケーションの作成中に設定された IoT サービスに関連するイベントの選択に応じて、[Choose Groups] ページか、[Activate] ダイアログボックスが表示されます。

- [Choose Groups] ページが表示された場合は、[ステップ9 \(49ページ\)](#) に移動します。

[Choose Groups] ページは、アプリケーションの作成時に、[Events] タブで [IoT Telemetry] および [IoT User Action] の中から IoT サービス関連イベントを少なくとも 1 つ選択した場合にのみ、[App Activation] ウィザードに表示されます。詳細については、「[Event Types](#)」を参照してください。

- [Activate] ダイアログボックスが表示された場合は、[ステップ10 \(49ページ\)](#) に移動します。

**ステップ9** このアプリケーションに対して有効にするグループを選択し、[Next] をクリックします。

[Choose Groups] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成中に選択された上記の IoT サービス関連イベントによって異なります。

[Activate] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ10** [Generate App Activation Token] セクションで、[Generate] をクリックしてアクティベーション (JWT) トークンを取得します。

**ステップ11** [Copy Token] をクリックして、表示されたアクティベーショントークンをコピーします。

**ステップ12** [Activation Instructions] セクションの画面指示に従って、アプリケーションをアクティベーションします。

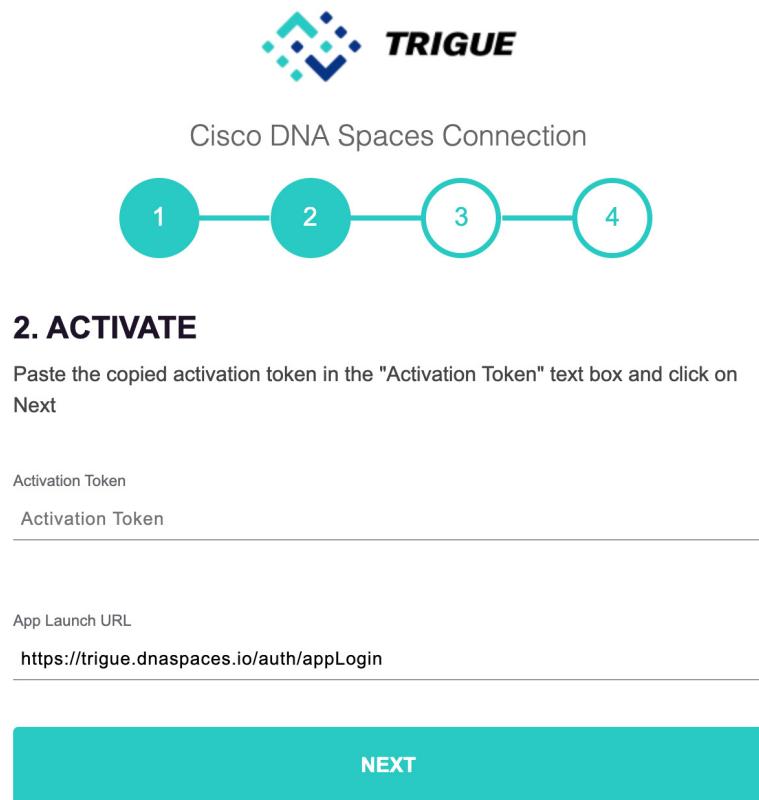
**ステップ13** [Activate Single Tenant Cloud App] ボタンをクリックします。セットアップ ウィザードが表示されます。

(注)

ウィザードの手順は、パートナーアプリケーションごとに異なる場合があります。

**ステップ14** [Next] をクリックします。[Activate] セクションが表示されます。

**ステップ15** 事前にコピーしたアクティベーショントークンと、[App Launch URL] を貼り付けます。



- ステップ 16** [Activate App] をクリックします。「アプリケーションのアクティベーションに成功した」とのメッセージが表示されます。
- ステップ 17** ブラウザウィンドウを閉じて、[Partner Dashboard] セクションに戻ります。
- ステップ 18** [App Activation Sandbox] をクリックします。
- ステップ 19** アプリケーションタイルの[Settings] リンクをクリックします。アクティベーションされたパートナー アプリケーションが [Partner Apps] セクションの下に表示されます。
- ステップ 20** [Activate] をクリックして、特定のパートナーテナント ID のアプリケーションをアクティベーションします。
- ステップ 21** 必要に応じて、[New Activation] をクリックし、別のパートナーテナント ID 用にアプリケーションをアクティベーションする手順を実行します。
- ステップ 22** 必要に応じて、[Remove app] をクリックし、ダッシュボードからパートナーアプリケーションを削除します。

#### 次のタスク

- 次のステップでは、オンプレミスパートナー アプリケーションのアクティベーション - API 統合を実行できます。

## シングルテナントクラウドアプリケーション - API の統合

シングルテナントクラウドパートナー アプリケーションのアクティベーションには、次の手順が含まれます。

### 手順

**ステップ1** お客様は、アプリケーションアクティベーションプロセス (Cisco Spaces ダッシュボード内) で以前に生成されたアクティベーショントークン (JWT) をコピーし、パートナーのシングルテナントクラウドアプリケーションに貼り付け、Cisco Spaces 接続セットアップを構成する必要があります。

次に、アクティベーショントークンのサンプルを示します。

```
eyJ0eXAiOiJKV1QiLC<XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>SIiUmFjdG12YXRpb25SZWZJZCI6IjBEO
DVBMTQ0TM0RTRDQ0NBQzFERjkwQzFFNzc0OTQzIiwiY3VzdG9tZXIIoiJUcmrndWUiLCJleHBpcmVzSW4
i0jE1NjE3MDMxMzQyNzEsInR1bmFudElkIjo0MjAsImJhc2VVcmwiOiJodHRwczovL3BhcnRuZXJzLmRld
i1kbmFzcGFjZXMuaw8iLCJwYXJ0bmVyVGVuYW50SWQiOiIwRDg1QTE0NEEzNEU0Q0NDQUMxREY5MEMxRTc3
NDk0MyIsImIhdCI6MTU2MTY5OTUzNCwiZXhwIjoxNTYxNzAzMTM0fQ.n6TenjTHdBw5VHLHO_rk6OpgR8Q0
waU1ynovI_qWOgzcunw2tqatXTNq6vTOo5vRzAtGRu4zYz34Y33NYA-zoQaTx3krb4fKr8DSmRcQ4xCFrI0
3ZkaZTtfi7uGrd-7TkOfFqPQgsZMLW7_IoYMFhpEunOu3gvijxQ00UYIQhgo
```

The decoded Activation Token would be similar to the below sample:  
{

```
"appId": "app-31688AFCCAD44F4E9EE7C0CF7DFC993E",
"version": "v1",
"activationRefId": "568850F2CF5A466F8BBA5C895863EE60",
"customer": "Trigue",
"expiresIn": 1559201374033,
"tenantId": 420,
"baseUrl": "https://partners.dnaspaces.io",
"partnerTenantId": "0D85A144A34E4CCAC1DF90C1E774943",
"iat": 1559201074,
"exp": 1559201374
}
```

**ステップ2** パートナーのシングルテナントクラウドアプリケーションは、次の手順に従ってアクティベーショントークンを検証する必要があります。

1. アクティベーショントークンを検証するには、partnerPublicKey API を使用して Cisco Spaces から公開キーを取得してください。
2. 前述の手順で取得した公開キーを使用して、アクティベーショントークンを検証します。

**ステップ3** トークンが有効な場合、パートナー シングルテナント クラウド アプリケーションは、お客様のアプリケーションをアクティブ化するために、Cisco Spaces アプリケーション アクティベーション API (API キーを返す) を呼び出します。

```
App Activation API Endpoint: <base-url>/client/v1/partner/activateSingleTenantCloudApp
Method: POST
Content-Type: application/json
Authorization: Bearer <The generated Activation Token>
JSON Payload
{
  "appId": "<appId extracted from activation token>",
  "activationRefId": "<activationRefId extracted from activation token>",
  "appDashboardUrl": "<appDashboardUrl to be provided by customer during app activation>"
}
```

アプリケーション アクティベーション API からの応答 JSON :

データパラメータ	説明	使用可能な値
appId	アプリケーションの固有識別子を指します	文字列
activationRefId	アクティベーション参照識別子	文字列
appDashboardUrl	シングルテナント クラウド パートナー アプリケーションは、指定されたこのリンクによって起動できます。	HTTPS URL

- [All valid] : 「appId」と「activationRefId」が有効な場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "status": true,
  "message": "Successfully activated the on-premise application.",
  "data": {
    "apiKey": "*****"
  }
}
```

- [Failed validation] : 「appId」または「activationRefId」の検証に失敗した場合、応答は次のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "Activation Token Invalid",
}
```

- [Reactivation with same token] : アプリケーションが正常にアクティブ化された後に同じトークンが再度使用された場合、アプリケーションは非アクティブ化され、応答は次の例のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "The on-premise application (app-*****) is deactivated due to
  reactivation is processed.",
  <uggestion>: "Deactivated the on-premise application
  (app-*****). A
```

```

        token can only be used once for app activation.",
        "data": null
    }
}

```

- [Expired token] : 有効期限切れ後にトークンが使用された場合、応答は次のようになります。

```

{
    "status": false,
    "message": "Activation Token Expired.",
}

```

- [Failed activation] : 各地域には固有の JWT トークンがあり、JWT トークンが同じ地域からのものではないベース URL で使用されている場合、アクティベーションは失敗し、応答は次のようになります。

```

{
    "status": false,
    "message": "Failed to activated the on premise application due to not able to
find appId : app-*****",
    "data":null
}
}

```

地域固有のベース URL は次のとおりです。

- その他の地域（ヨーロッパおよびシンガポール地域を除く）：<https://partners.dnaspaces.io>
- ヨーロッパ地域：<https://partners.dnaspaces.eu>
- シンガポール地域：<https://partners.ciscospaces.sg>

**ステップ4** 応答から apiKey を使用して、パートナー API を呼び出してイベントデータを受信します。

## オンプレミス パートナー アプリケーション

### オンプレミス パートナー アプリケーションの作成

オンプレミス パートナー アプリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ1** <https://partners.dnaspaces.io/home> に移動して、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [Create New App] タイルをクリックします。

[Choose App Type] ダイアログボックスに、[Multi Tenant Cloud]、[Single Tenant Cloud]、および [On-Prem] オプションが表示されます。

## ■ オンプレミスパートナーアプリケーションの作成

**ステップ3** パートナーアプリケーションの下にある [Create New App] タイルをクリックします。

**ステップ4** [On-Prem] オプションを選択します。

**ステップ5** [Create] をクリックします。

[App Center]、[Uses Cases]、[App Tile]、[Behaviors]、[Events]、および [Integration Details] タブが表示されます。これらの各タブでは、アプリケーションの詳細を設定できます。

**ステップ6** デフォルトでは、[App Center] タブが表示されます。

- a) 目的の地域を選択します。ヨーロッパ地域用のアプリケーションを作成、アクティブ化、公開、および管理するには、[Europe Region] オプションを選択します。それ以外の場合は、[Rest of the World (Except Europe region)] オプションを選択します。
- b) 関連する [APP Name] を入力します。
- c) アプリケーションに関連する [App Tagline] を入力します。
- d) [Choose File] ボタンをクリックして、[APP Icon] の画像を選択してアップロードします。
- e) 関連する [App Description] を入力します。
- f) アプリケーションの [Primary Industry] を選択します。
- g) アプリケーションが特定のビジネスセグメントに適用される場合は、[More Industries] セクションで以下の関連するチェックボックスをオンにします。[Retail]、[Hospitality]、[Health Care]、[Manufacturing]、[Education]、[Financial Services]、[Venues]、[Workspaces]、[Real estate]、[Others]。
- h) [Developer Info]、[Support Contact]、[Sales Contact]、[App Media] セクションには、[Company Logo]、[Company Name]、[Company Website]、[Support Contact]、[Support Email]、[Sales Phone]、[Sales Email]、[Screenshots]、および [Youtube Video URL] などの詳細情報を含めることができます（オプション）。
  - [Developer Info] セクションで、[Choose File] をクリックして、アプリケーションデベロッパーの会社ロゴをアップロードします。
  - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Name] を入力します。
  - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Website] を入力します。
  - [Developer Info] セクションで、[Choose File] をクリックして、アプリケーションデベロッパーの会社ロゴをアップロードします。
  - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Name] を入力します。
  - 必要に応じて、アプリケーションデベロッパーの [Company Website] を入力します。
  - 必要に応じて、[Support Contact] セクションで [Support Phone] の番号を入力します。
  - 必要に応じて、[Support Contact] セクションで [Support Email] のアドレスを入力します。
  - 必要に応じて、[Sales Contact] セクションで [Sales Phone] の番号を入力します。
  - 必要に応じて、[Sales Contact] セクションで [Sales Email] のアドレスを入力します。

- 必要に応じて、[APP Media] セクションで、ローカルドライブからアプリケーションのスクリーンショットをドラッグアンドドロップするか、[Click here to upload] リンクをクリックしてアプリケーションのスクリーンショットを選択してアップロードします。
- アプリケーションの動画 URL を保存する場合は、[Youtube Video URL] を入力し、[Save] をクリックします。

**ステップ7** [Use Cases] タブをクリックします。

**ステップ8** 1つまたは複数のユースケースを追加する場合は、[Add a Use Case] ボタンをクリックします。

- 関連する [Use Case Headline] を入力します。
- [Choose File] ボタンをクリックして、[Use Case Icon] を選択してアップロードします。
- 関連する [Use Case Short Description] を入力します。
- オプションの [Use Case Long Description] を入力します（ある場合）。
- オプションの [Compatibility Notes] を入力します（ある場合）。
- 関連する [Use Case Category] を選択します。使用可能なオプションは、[Analytics]、[Captive Portal]、[Marketing & Engagement]、[Asset Management]、[Wayfinding]、[Mapping]、[Others] です。ユースケースが使用可能なカテゴリのいずれにも属していない場合は、[Others] を選択します。
- [Who is this use case applicable to]、[What value does this drive for the customer?] の質問に対して他のオプションのユースケースオプションを入力します。
- 必要に応じて、適切な [Infrastructure Compatibility] のオプションを選択します。
- 必要に応じて、関連する [Screenshots] および [Youtube Video URL] をアップロードします（ある場合）。
- [Save] をクリックして、変更内容を保存します。
- [Add Another Use Case] ボタンをクリックして、ユースケースを追加します。

**ステップ9** [App Tile] タブをクリックします。[App Tile Configuration] セクションが表示されます。

- 関連する [APP Tile Label] を入力します。
- 目的の [App Tile Tagline] の説明を入力します。
- 必要に応じて、[App Activation Instructions] ウィンドウに関連する手順を入力します。
- [APP Launch Configuration] セクションで、[App Launch Link] オプションをオンにしてアプリケーション起動 URL を指定するか、[Launch Instructions Notes] オプションを選択して [App Launch Instructions Notes] ウィンドウに関連情報を入力します。

**ステップ10** [Behaviors] タブをクリックします。新規のお客様の自動サインアップをサポートする場合は、[App Behaviors] セクションに詳細を入力します。

- [NEW CUSTOMER ONBOARDING] セクションでは、新規のお客様のサインアップ用のリダイレクト URL を入力できます。[Sign Up URL] フィールドにリダイレクト URL を入力します。
- [Contact Company Info] フィールドに正しいアドレスを入力します。
- お客様がアプリケーションを削除するときに詳細を表示できるようにするには、[Delete App Confirmation] フィールドに詳細を入力します。URL で **https://** プロトコルが使用されていることを確認します。

## ■ オンプレミスパートナーアプリケーションの作成

- d) アプリケーションモニタリング設定は、Cisco Spaces がアプリケーションの正常性と稼働時間ステータスをモニターしてレポートするのに役立ちます。[APP MONITORING] セクションで、[App Health Check URL]、[API Health Status URL]、および[App Status Page URL] フィールドに正しいリンクアドレスを入力します。アプリケーションモニタリング URL を入力する場合は、<https://> プロトコルを使用してください。詳細については、[パートナー アプリケーションの正常性のモニター \(69 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ11** [Events] タブをクリックします。使用可能なアプリケーションの [Events Types] と [Event Settings] が一覧表示されます。

[Event Types] 画面に一覧表示されるイベントは、アプリケーションのアクティベーションの発生時点から、デバイスが存在し、他のさまざまなイベントタイプのデータが収集されるまで順番にトリガーされます。各イベントタイプは、特定のアクティビティが発生するとトリガーされます。

- 例：お客様が初めてパートナーアプリケーションをアクティビ化すると、お客様がアプリケーションをアクティビ化したなどの情報の更新により、アプリケーションアクティベーションイベントがバックグラウンドでトリガーされます。
- 次に、**ロケーション情報の変更**イベントがトリガーされ、ロケーション階層で構成されているさまざまなロケーションでのすべてのアクティベーションのロケーション変更情報が提供されます。
- Wi-Fi ロケーションのインフラストラクチャがセットアップされている場合、訪問者が SSID に接続すると、**デバイスのロケーションの更新**を受信します。
- ただし、デバイスが初めて SSID に接続した場合は、入場時に**デバイスプレゼンス**イベント情報も受信します。訪問者のデバイスがユーザーIDに関連付けられている場合は、**ユーザー プrezens**イベントタイプを受信します。ユーザーのデバイスの状態に基づいて、その他のイベントデータ情報を受信します。例：ユーザーのデバイスがパッシブであるか、指定された 10 分間にわたってデバイスの更新がない場合、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**の両方のイベント情報が**非アクティブ**として示されます。例：訪問者がモバイルデバイスとラップトップなど、一度に複数のデバイスを持ってロケーションに入り、両方のデバイスでロケーションの更新が 10 分間受信されていない場合、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**のイベントは**非アクティブ**として示されます。
- いずれかのデバイスがロケーションでアクティブになると、**ユーザー プrezens**と**デバイス プrezens**のイベントステータスが自動的に**アクティブ**に変わります。いずれかのデバイスまたは両方のデバイスがより長い期間または指定された時間間隔で**非アクティブ**になると、**デバイス プrezens**イベントがトリガーされます。
- ビジネスロケーションに TelePresence デバイスが設定されている場合、その TelePresence デバイスは、組み込みセンサーを使用して、部屋内的人数占有率と人数カウントのデータを送信します。人数カウントデータは概算ですが、人数占有率データは正確です。変更が特定されるたびに、システムは更新されたデータを自動的に送信します。

(注)

適用可能でビジネスユースケースに必要なイベントタイプのみを選択することを強く推奨します。これにより、イベント数は制限され、不要なシステムオーバーヘッドは回避されます。具体的には、イベントは、TelePresence デバイスを Cisco Spaces とやり取りするよ

うに設定している場合にのみ登録する必要があります。これにより、受信するイベントの数を制限し、不要なオーバーヘッドを回避できます。

- a) 表示される使用可能な [Events Types] は次のとおりです。

- [Device Entry] : このイベントは、デバイスがロケーションに入場したときに送信されます。

**注目**

[Device Entry] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Device Exit] : このイベントは、デバイスがロケーションから退出したときに送信されます。

**注目**

[Device Exit] イベントは廃止され、現在は [Device Presence] イベントに置き換えられています。

- [Profile Update] : このイベントは、デバイスプロファイルが更新されたときに送信されます。たとえば、エンドユーザーがキャプティブポータルで情報を提供すると、送信されます。

- [Location Information Change] : このイベントは、ロケーションが更新または変更されたときに送信されます。たとえば、ロケーションがグループの下に移動したり、ロケーションの名前が変更されたり、ロケーションのメタデータが変更された場合です。

- [TelePresence] : このイベントは、TelePresence システムで人数カウントの更新があったときに送信されます。

**注目**

[TelePresence] イベントは廃止され、Telepresence の更新の拡張バージョンである [Webex Telemetry] イベントに置き換えられました。

- [Device Location Update] : このイベントは、デバイスのロケーションが更新されたときに送信されます。[Receive Geo Coordinates] オプションをオンにすると、デバイスの緯度および経度の座標が、デバイスの X および Y 座標データとともに受信されます。

- [App Activation] : このイベントは、お客様がアプリケーションをアクティビ化したときに送信されます。

- [Account Admin Change] : このイベントは、パートナー アカウントのアカウント管理者が追加、削除、または更新されたときに送信されます。

- [Device Presence] : ロケーションでのデバイスのライフサイクルを追跡するために使用されます。デバイスが入場したとき、デバイスが10分間非アクティブになったとき、デバイスが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはデバイスが退出したと判断したときにイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロ

## ■ オンプレミスパートナーアプリケーションの作成

ロケーションにあるアクティブなデバイスと非アクティブなデバイスの数も提供します。

- [User Presence] : 使用中の利用可能な認証とネットワークから入手可能な情報に基づいて、Cisco Spaces はユーザーが所有するグループの複数のデバイスをマッピングできます。ユーザーが入場したとき、ユーザーが10分間非アクティブになったとき、ユーザーが非アクティブになった後にアクティブになったとき、またはユーザーが退出したと判断したときにイベントが生成されます。これらのイベントは、現在そのロケーションにあるアクティブなユーザーと非アクティブなユーザーの数も提供します。
- [IoT Telemetry] : このイベントは、BLE、RFID、および Zigbee IoT デバイスからのテレメトリの更新があったときに送信されます。
- [IoT User Action] : このイベントは、IoT デバイスでユーザーアクションが実行されたときに送信されます。
- [Device Count] : このイベントは、ロケーションにあるデバイスの（カウント）数に変化があったときに送信されます。
- [Webex Telemetry] : このイベントは、ロケーションで Webex デバイスからのテレメトリがあったときに送信されます。

(注)

このイベントを利用するには、Cisco Spaces ACT ライセンスが必要です。

- [Device Association] : このイベントは、デバイスが指定されたロケーションで接続されたときに送信されます。デバイスの詳細には、デバイス ID、ロケーションの詳細、SSID、およびユーザーに関連付けられたその他の情報が含まれます。

(注)

- 詳細については、<https://developer.cisco.com/docs/cisco-spaces-firehose/api/> を参照してください。
- アプリのアクティブ化中に、IoT サービスで定義されたグループを表示できるようになりました。ただし、これらのグループは、次のイベントのいずれかを選択した場合にのみ表示されます。

• **IOT\_TELEMETRY**

• **IOT\_USER\_ACTION**

アプリのアクティブ化中に選択したグループを管理するには、[Activation] ウィンドウで、[Groups] タブをクリックします。ここで、グループを追加または編集できます。

(注)

- この機能を使用するには、指定した Cisco Spaces アカウントの IoT サービスを有効にする必要があります。この機能を使用するには、Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボード for EXTEND アカウントの両方から IoT サービスを有効にする必要があります。

- Cisco Spaces ダッシュボードと Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方で実行されたアクティベーションのアプリのアクティベーション中に、上記のグループを確認できます。

b) [Event Settings] セクションで、目的のロケーションのオプションをオンにします。

- [Choose Locations] で、Cisco Spaces - ロケーション階層で指定されたさまざまなロケーションレベルについて、上記のイベントタイプデータを受信することを選択できます。Cisco Spaces 内のロケーション階層は、物理的または地理的なビジネス階層にのみ対応するのではなく、ビジネスニーズと組織階層に対応するようにセットアップできます。

Cisco Spaces では、メインまたは [Root Level] を定義することによって、ビジネス組織の階層を設定できます。このレベルには、1つ以上の [Group] および [Network] レベルを含めることができます。各ネットワーク レベルには1つ以上のフロアを含めることができ、各フロア レベルには1つ以上のゾーンを含めることができます。アクセスポイントは、さまざまなゾーンに関連付けることができます。

- アプリケーションを使用可能にして、すべてのビジネスロケーションからイベントデータを受信する場合は、[All Location Types] をオンにします。
- アプリケーションを使用可能にして、選択した特定のロケーションタイプからのみイベントデータを受信する場合は、[Location Types] オプションをオンにします。使用可能なロケーションタイプは、[RootLevel]、[Groups]、[Network]、[Floor]、および [Zone] です。

(注)

[Network]、[Floor]、または[Zone] レベルのみなど、ロケーション階層の特定のレベルでのみ運用している場合、不要なシステムオーバーヘッドを回避するために、その特定のレベルについてのみイベントデータを受信することを強く推奨します。Cisco Spaces - ロケーション階層のすべてのレベルの情報を処理する必要がある場合にのみ、[All Location Types] オプションを選択してください。

- 目的のロケーションタイプを選択します。
- 上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードにデバイスの MAC アドレスが含まれています。[MAC Address Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンにすると、クライアントの MAC アドレスおよび関連するイベントの詳細を受信するようになります。MAC アドレスの共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ビジネス要件でデバイス ID のみが必要な場合は、Cisco Spaces が提供するデバイス ID のイベントタイプデータをデバイス関連のすべてのイベントとともに使用できます。
- 上記のイベントタイプの一部には、イベントペイロードでソーシャル識別子の共有データが含まれます。[Social Identifier Sharing] イベントの設定の場合、[Yes] オプションをオンにすると、ソーシャル識別子の共有データおよび関連するイベ

## ■ オンプレミスパートナーアプリケーションの作成

トの詳細を受信するようになります。ソーシャル識別子の共有の詳細を受信する場合は、GDPR コンプライアンス要件に対応する責任を負うことになります。ただし、GDPR コンプライアンス標準の要件に準拠せず、ソーシャル識別子の共有データの処理または保存中にデータプライバシーの問題を回避する場合は、[No] オプション（デフォルトでオンになっています）を選択できます。

- おそらく一部のパートナーでは、ワイヤレスネットワークインフラストラクチャが完全にセットアップされておらず、受信したデータを分析するために上記のイベントタイプ情報を受信するように設定されていない場合があります。上記のイベントから受信される一般的なサンプルデータを一目で確認するには、[Receive Simulation Events] オプションに関連付けられている [Yes] オプションを選択します。シスコからサンプルのダミーデータを受信するようになります。

(注)

- [Simulation Events] の一部として提供されるデータは、ダミーデータのみです。このサンプルデータは、他のイベントまたは API 間での相互運用性または完全性を保証するものではありません。
- シミュレーションデータは US ドメインでのみ使用できます。

シスコからダミーのシミュレーションイベントデータを受信しない場合は、[No] をオンにします。

右側の [Permissions] および [Location Permissions] セクションには、アプリケーションのアクティベーション中にお客様から要求される権限のタイプに関する情報が表示されます。権限は、選択したイベントタイプに基づきます。たとえば、デバイスの MAC アドレスを収集する場合、アプリケーションはお客様の MAC 固有の権限を要求します。これらの権限は、選択したイベント、ロケーション、およびプライバシー設定に基づきます。

**ステップ 12** [Integration Details] タブで、目的の [Integration Types] を選択します。

a) [Pull Channels] セクションでは、次のオプションから選択できます。

- [HTTP] : ストリーミング HTTP 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。
- [gRPC] : ストリーミング gRPC コールを介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。
- [Websocket] : ストリーミング Websocket 接続を介してプルチャネルイベントの詳細を送信します。

(注)

詳細については、<https://developer.cisco.com/docs/cisco-spaces-firehose/pull-channels/> にアクセスしてください。

**ステップ 13** [Create] をクリックしてアプリケーションを作成します。

## 次のタスク

アプリケーションの横にある省略記号アイコン (...) をクリックすると、(アプリケーションのステータスに応じて) 次のような追加のオプションが表示されます。

- [View] : アプリケーションを表示し、その設定と詳細を確認します
- [Edit] : アプリケーションの設定または詳細を編集します
- [Preview App] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターでアプリケーションがどのように表示されるかを確認します
- [Test] : アプリケーションをテストします
- [Submit app] : レビュー用にアプリケーションを送信します
- [Update app] : ライブアプリケーションを更新します
- [App Activations] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードのアプリケーションのアクティベーションに関する詳細 (顧客名、アクティブ化された場所、最後にアクティベーションが行われた日付など) を表示します。

このオプションは、アプリケーションが [Live]、[Approved]、または [Coming soon] のステータスの場合にのみ表示され、アプリケーションが [Draft]、[Testing]、または [Submitted] のステータスの場合はアクティブ化できません。

- [Make a copy of app] : アプリケーションを複製します。

コピーされたアプリケーションが元のアプリケーションと異なるリージョン用である場合、元のアプリケーションと同じ名前を保持できます。ただし、元のアプリケーションと同じリージョンにアプリケーションのコピーが必要な場合は、コピーしたアプリケーションの名前を変更する必要があります。そうしないと、「Partner app name already exists: <app name>」というエラーメッセージが表示されます。

- [Delete app] : Cisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターからアプリケーションを削除します。

詳細については、[アプリケーションの削除 \(72 ページ\)](#) を参照してください。

- [Trace Firehose] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードからアプリケーションの Firehose データを表示またはダウンロードします。

詳細については、[Trace Firehose \(10 ページ\)](#) を参照してください。

## オンプレミスパートナー アプリケーションのアクティブ化

オンプレミスパートナー アプリケーションを作成したら、次のステップは、アクティベーション (JWT) トークンを生成して使用することにより、オンプレミスパートナー アプリケーションをアクティブ化することです。

## 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [App Activation Sandbox] タイルをクリックします。

(注)

以前にアプリケーションをアクティブ化しているが、このアプリケーションで新しいイベントに登録している場合、アプリケーションタイルに「New Permissions Required」の通知が表示されます。特定のアプリケーションタイルをクリックし、新しいイベントの権限を確認し、[Accept Permission] を選択します。

[Accept Permission] を選択すると、選択したアプリケーションで新しいイベントに登録され、このイベントも Cisco Spaces - Partner Firehose API を介して送信されます。

**ステップ3** [EXTEND] セクションの下にある [Get Partner Apps] タイルをクリックします。

(注)

[App Activation Sandbox] は、作成したアプリケーションのみが表示されます。

**ステップ4** 目的のアプリケーションをクリックして、関連する詳細を表示します。

**ステップ5** [Activate App] をクリックします。

アプリケーションのアクティベーション ウィザードが表示されます。

**ステップ6** パートナーアカウントを持っているかどうかに応じて、[Sign Up & Onboarding] で適切なオプションを選択し、[Continue] をクリックします。

[Permissions] ページが表示されます。

**ステップ7** [Accept Permission] をクリックして続行します。

[Permissions] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成時に選択した [Event Types] および [Event Settings] によって異なります。お客様は、[Location] および [Telepresence] データへのアクセスを承認し、アプリケーションが動作のために MAC アドレスを必要とする場合、デバイスの MAC アドレスを共有することに同意する必要があります。

[Permissions] ページで、[Telepresence] セクションは、アプリケーションの作成時に [Telepresence Event Type] オプションを選択した場合にのみ表示されます。詳細については、「Event Types」を参照してください。

[Choose Locations] ページが表示されます。

**ステップ8** イベントデータを受信するために、このアプリケーションを有効にしてアクティブ化するロケーションを選択し、[Next] をクリックします。

アプリケーションの作成中に設定された IoT サービスに関連するイベントの選択に応じて、[Choose Groups] ページか、[Activate] ダイアログボックスが表示されます。

- [Choose Groups] ページが表示された場合は、[ステップ9 \(63 ページ\)](#) に移動します。

[Choose Groups] ページは、アプリケーションの作成時に、[Events] タブで [IoT Telemetry] および [IoT User Action] の中から IoT サービス関連イベントを少なくとも 1 つ選択した場合にのみ、[App Activation] ウィザードに表示されます。詳細については、「[Event Types](#)」を参照してください。

- [Activate] ダイアログボックスが表示された場合は、[ステップ 10 \(63 ページ\)](#) に移動します。

**ステップ 9** このアプリケーションに対して有効にするグループを選択し、[Next] をクリックします。

[Choose Groups] ページに表示される情報は、アプリケーションの作成中に選択された上記の IoT サービス関連イベントによって異なります。

[Activate] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 10** [Generate App Activation Token] セクションで、[Generate] をクリックしてアクティベーション (JWT) トークンを取得します。

**ステップ 11** [Copy Token] をクリックして、表示されたアクティベーショントークンをコピーします。

**ステップ 12** [Activation Instructions] セクションの画面指示に従って、アプリケーションをアクティベーションします。

**ステップ 13** [Activate On Premise App] ボタンをクリックします。セットアップウィザードが表示されます。

(注)

ウィザードの手順は、パートナー アプリケーションごとに異なる場合があります。

**ステップ 14** [Next] をクリックします。[Activate] セクションが表示されます。

**ステップ 15** 事前にコピーしたアクティベーショントークンを貼り付けます。

**ステップ 16** [Activate App] をクリックします。「アプリケーションのアクティベーションに成功した」とのメッセージが表示されます。

**ステップ 17** ブラウザ ウィンドウを閉じて、[Partner Dashboard] セクションに戻ります。

**ステップ 18** [App Activation Sandbox] をクリックします。

**ステップ 19** アプリケーション タイルの [Settings] リンクをクリックします。アクティベーションされたパートナー アプリケーションが [Partner Apps] セクションの下に表示されます。

**ステップ 20** [Activate] をクリックして、特定のパートナーテナント ID のアプリケーションをアクティベーションします。

**ステップ 21** 必要に応じて、[New Activation] をクリックし、別のパートナーテナント ID 用にアプリケーションをアクティベーションする手順を実行します。

**ステップ 22** 必要に応じて、[Remove app] をクリックし、ダッシュボードからパートナー アプリケーションを削除します。

## 次のタスク

- 次のステップでは、[オンプレミス パートナー アプリケーションのアクティベーション - API 統合](#) を実行できます。

## オンプレミス アプリケーション - API 統合

オンプレミス パートナー アプリケーションのアクティベーションには、次の手順が含まれます。

### 手順

**ステップ1** お客様は、アプリケーションアクティベーションプロセス (Cisco Spaces ダッシュボード内) で以前に生成されたアクティベーショントークン (JWT) をコピーし、パートナーのオンプレミス アプリケーションに貼り付け、Cisco Spaces 接続セットアップを構成する必要があります。

アクティベーショントークンの例を次に示します。

```
eyJ0eXAiOiJKV1QiLC<XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>SIiUmFjdG12YXRpb25SZWZJZCI6IjBEO
DVBMTQ0QTM0RTRDQ0NBQzFERjkwQzFFNzc00TQzIiwiY3VzdG9tZXiiOiJUcmLnDWUiLCJleHBpcmVzSW4
iojE1NjE3MDMxMzQyNzEsInRbmFudElkIjo0MjAsImJhc2VvcmwiOiJodHRwczovL3BhcnRuZXJzLmRld
i1kbmFzcGFjZXMuaw8iLCJwYXJ0bmVyVGVuYW50SWQjOiIwRDg1QTE0NEEzNEU0QONDQUMxREY5MEMMxRTc3
NDk0MyIsImlhdCI6MTU2MTY5OTUzNCwizXhwIjoxNTYxNzAzMTM0fQ.n6TenjTHdBw5VHLHO_rk60pgR8Q0
waU1ynovI_qWOgzcunw2tqatXTNq6vT0o5vRzAtGRu4zYz34Y33NYA-zoQaTx3krb4fKr8DSmRcQ4xCFrI0
3ZkazTtfi7uGrd-7TkOfFqPqgsZMLW7_IoYMFhpEunOu3gvijxQ00UYIQhgo
```

The decoded Activation Token would be similar to the below sample:  
{

```
"appId": "app-31688AFCCAD44F4E9EE7C0CF7DFC993E",
"version": "v1",
"activationRefId": "568850F2CF5A466F8BBA5C895863EE60",
"customer": "Trigue",
"expiresIn": 1559201374033,
"tenantId": 420,
"baseUrl": "https://partners.dnaspaces.io",
"partnerTenantId": "0D85A144A34E4CCCAC1DF90C1E774943",
"iat": 1559201074,
"exp": 1559201374
}
```

**ステップ2** パートナーのオンプレミス アプリケーションは、次の手順に従ってアクティベーショントークンを検証する必要があります。

1. アクティベーショントークンを検証するには、partnerPublicKey API を使用して Cisco Spaces から公開キーを取得してください。
2. 前述の手順で取得した公開キーを使用して、アクティベーショントークンを検証します。

**ステップ3** トークンが有効な場合、パートナー オンプレミス アプリケーションは、お客様のアプリケーションをアクティベーションするために、Cisco Spaces アプリケーション アクティベーション API (API キーを返す) を呼び出します。

```
App Activation API Endpoint: <base-url>/client/v1/partner/activateOnPremiseApp
Method: POST
Content-Type: application/json
Authorization: Bearer <The generated Activation Token>
JSON Payload
{
  "appId": "<appId extracted from activation token>",
  "activationRefId": "<activationRefId extracted from activation token>",
  "instanceName": "<Optional parameter, which indicates the location name>"
}
```

アプリケーション アクティベーション API からの応答 JSON :

データパラメータ	説明	使用可能な値
<b>appId</b>	アプリケーションの固有識別子を指します。	文字列
<b>activationRefId</b>	アクティベーション参照識別子	文字列

- [All valid] : 「appId」 と 「activationRefId」 が有効な場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "status": true,
  "message": "Successfully activated the on-premise application.",
  "data": {
    "apiKey": "*****"
  }
}
```

- [Failed validation] : 「appId」 または 「activationRefId」 の検証に失敗した場合、応答は次のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "Activation Token Invalid",
}
```

- [Reactivation with same token] : アプリケーションが正常にアクティベーションされた後に同じトークンが再度使用された場合、アプリケーションは非アクティベーションされ、応答は次の例のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "The on-premise application (app-*****) is deactivated due to
  reactivation is processed.",
  <Suggestion>: "Deactivated the on-premise application
  (app-*****). A
  token can only be used once for app activation.",
  "data": null
}
```

- [Expired token] : 有効期限切れ後にトークンが使用された場合、応答は次のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "Activation Token Expired."
}
```

- [Failed activation] : 各地域には固有の JWT トークンがあり、JWT トークンが同じ地域からのものではないベース URL で使用されている場合、アクティベーションは失敗し、応答は次のようになります。

```
{
  "status": false,
  "message": "Failed to activated the on premise application due to not able to
  find appId : app-*****",
  "data":null
}
}
```

地域固有のベース URL は次のとおりです。

- その他の地域（ヨーロッパおよびシンガポール地域を除く） : <https://partners.dnaspaces.io>
- ヨーロッパ地域 : <https://partners.dnaspaces.eu>
- シンガポール地域 : <https://partners.ciscospaces.sg>

**ステップ4** 応答から apiKey を使用して、パートナー API を呼び出してイベントデータを受信します。

## アプリケーション統合

### JWT を検証するためのパートナー公開キー

パートナーサイトは、シームレスログインをプロビジョニングするために、Cisco Spaces ダッシュボードから送信された JWT トークンを検証するための公開キーを必要とします。パートナーサイトは、JWT を検証するために、**partnerPublicKey** API を呼び出して Cisco Spaces - パートナーダッシュボードから公開キーを取得する必要があります。

メソッド : GET

API エンドポイント : <baseUrl>/client/v1/partner/partnerPublicKey/<<version>>



(注) ドメインは、環境（サンドボックス、実稼働前、実稼働など）によって異なります。

<baseUrl> は、JWT トークンから取得する必要があります。

コンテンツタイプ : application/json

## 応答形式：

```
{
  "status": true,
  "message": "Successfully fetched partner keys.",
  "data": [
    {
      "version": "v1",
      "publicKey": "MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4GNADCBiQKBgQCK94vw90PYkuv8Z00qGCZ0mZ9
      cCFTKBbDeGX8akpFFmPJ3QK2beUY+1Xqe2Rdu35RtUrWowKyy6riCUDQpq18lg8R
      PrWP6MrWrX5kZ+Adb9cLc0mBW92Rvm+qxjHHRHSSop4uGIDpq2P9RKurNMT19SX1q
      kPfjpYw9d8GdEYh+gQIDAQAB"
    },
    {
      "version": "v2",
      "publicKey": "MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4GNADCBiQKBgQCpeGHWXyhj/ZdEOWeSPk3z7oDbN+V
      PTTeA43cbruL8X8JSRbb+hJO60867gbPMC+odTEqYEutkabaBeUFH0pbmXACGUq/maWaR
      j23Ued1jdXcGKtwwQmzbAMJbHWSAXU1EGApYwzAO9qbz6SDiDqq/9vo4LVLYQ1ChRN82W
      KawXwIDAQAB"
    }
  ]
}
```



(注) .pem ファイルフォーマットごとに、次のコードブロックを使用します。

```
-----BEGIN PUBLIC KEY-----\n <$Public Key> \n-----END PUBLIC KEY-----
Where, Public Key is retrieved as part of the partner public key API response.
```

## 特定のバージョンのパートナー公開キーの取得

上記の API <base-url>/client/v1/partner/partnerPublicKey は、パートナーのすべての公開キー バージョンを取得します。ただし、パートナーが特定のバージョンの公開キーを取得する場合もあります。このような場合は、<base-url>/client/v1/partner/partnerPublicKey/<<version>> 形式で上記の API にバージョン番号のサフィックスを渡す必要があります。

例：<https://partners.dnaspaces.io/client/v1/partner/partnerPublicKey/v1> (v1 はパートナーの公開キー バージョン)

メソッド：GET

API エンドポイント：`<baseUrl>/client/v1/partner/partnerPublicKey/<<version>>`



(注) ドメインは、環境（サンドボックス、実稼働前、実稼働など）によって異なります。

`<baseUrl>` は、JWT トークンから取得する必要があります。

コンテンツタイプ：application/json

## 応答形式：

```
{
  "status": true,
  "message": "Successfully fetched partner key.",
```

## JWT トークンの復号化

```

    "data": {
      "version": "v1",
      "publicKey": "MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4GNADCBiQKBgQCk94vw9OPYkuv8ZQOqGCZ0mZ9cCFTKBbDe
      GX8akpFFmPJ3QK2beUY+1Xqe2Rdu35RtUrWowKyy6riCUDQpq18lg8RPrWP6MrWrX5kZ+Adb9c
      Lc0mBW92Rvm+qxjHHRHSSop4uGIDpq2P9RKurNMT19SX1qkPfjpYw9d8GdEYh+gQIDAQAB"
    }
  }

```



(注) バージョンとは、パートナーの公開アクセスキーのバージョンを指します。

## JWT トークンの復号化

例：トークン（エンコード済み）

```
eyJ0eXAiOiJKV1QiLCJhbGciOiJSUzI1NiJ9.eyJ2ZXJzaW9uIjoidjEiLCJ
hcHBkJZCI6ImFwcC00MjdGQ0E1Mzk4REQ0QjIxQUU4RkI1NTVDRjVGREE5RSIsInRl
bmFudElkIjoxMTU1NywicGFydG5lclRl
bmFudElkIjoidHJpZ3VlIiwidXNlcklkIjoi
dml2ZWtuY0BjaXNjby5jb20iLCJpYXQiOjE1NTUwNTMxOTYsImV4cCI6MTU1NTA1Mz
MxNn0.QXce-ZQbp3_IYp1moEvUB2Xo6ic5udu-NPAMFgUFMq73JDaGmQT
w5yW3wgNSzagX1VQ20yLL-f54Qf9x0KCA6v2wbOiafyi4AqXofXBwbjF182713PUBx
o89ghxtRyDuCoXvLHWVPfa2cmoFqD-FOFvVzIw9mA4cJcSU2Vp57TA
```

JWT トークンは、jwt.io などのツールを使用して復号化されます。復号された JWT トークンの値を次に示します。

```

HEADER:ALGORITHM & TOKEN TYPE
{
  "typ": "JWT",
  "alg": "RS256"
}
PAYLOAD:DATA
{
  "version": "v1",
  "appId": "app-427FCA5398DD4B21AE8FB555CF5FDA9E",
  "tenantId": 11557,
  "partnerTenantId": "trigue",
  "userId": "johndoe@email.com",
  "iat": 1555053196,
  "exp": 1555053316
}
{
  "version": "v1",
  "appId": "app-427FCA5398DD4B21AE8FB555CF5FDA9E",
  "tenantId": 11557,
  "partnerTenantId": "trigue",
  "userId": "johndoe@email.com",
  "iat": 1555053196,
  "exp": 1555053316
}
VERIFY SIGNATURE
RSASHA256(
  base64UrlEncode(header) + "." +
  base64UrlEncode(payload),
)

```

## パートナーアプリケーションの正常性のモニター

マルチテナントクラウド、シングルテナントクラウド、またはオンプレミスのパートナーアプリケーションの正常性は、以下で説明されているさまざまな方法でモニターできます。

### マルチテナント クラウド パートナー アプリケーションの正常性

次のURLは、マルチテナントクラウドパートナーアプリケーションの正常性を示すパラメータを返します。

- アプリケーション正常性チェック URL : >[Monitor] ウィンドウで、パートナーアプリケーションのすべてのコンポーネントが正常であると示されている場合、アプリケーション正常性チェック URL は 200 OK のレスポンスを返します。

図 5: アプリケーション正常性チェック URL

The screenshot shows the Postman interface with a GET request to `https://xxx.com/health/live`. The 'Body' tab is selected, showing an empty JSON object. The response status is `200 OK`, and the body content is `Healthy`.

- API 正常性ステータス URL : API 正常性ステータス URL は、Cisco Spaces - Partner Firehose API を介してお客様のデータを正常に受信すると、200 OK のレスポンスを返します。

図 6: API 正常性ステータス URL

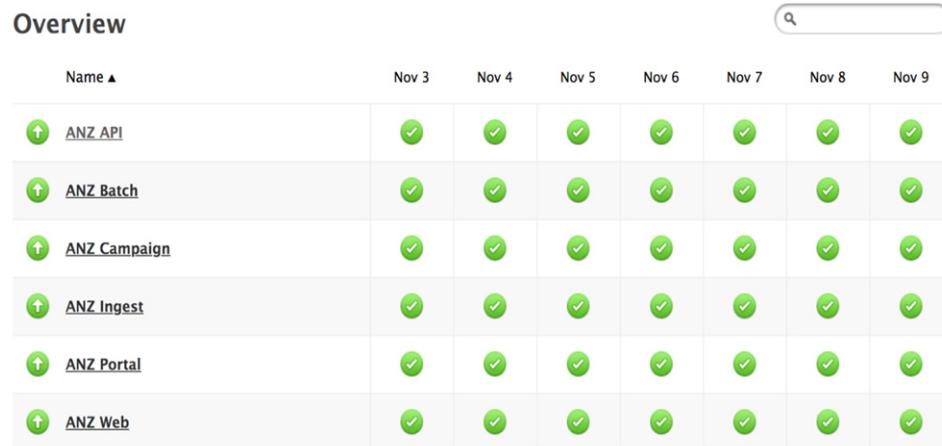
The screenshot shows the Postman interface with a GET request to `https://xxx.com/health/live`. The 'Body' tab is selected, showing an empty JSON object. The response status is `200 OK`, and the body content is `Healthy`.

- アプリケーションステータスページ URL：パートナーは、プラットフォームアプリケーションおよびプラットフォームの正常性ステータスを提供するアプリケーションステータスページをホストする必要があります。このアプリケーションステータスページ URL は、[Behaviors] タブの下にある [App Status Page URL] フィールドに入力する必要があります。

ステータスページの例を次に示します。

図 7: アプリケーションステータスページの例

Overview



Name	Nov 3	Nov 4	Nov 5	Nov 6	Nov 7	Nov 8	Nov 9
ANZ API	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ANZ Batch	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ANZ Campaign	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ANZ Ingest	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ANZ Portal	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ANZ Web	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

#### オンプレミスおよびシングルテナント クラウド パートナー アプリケーションの正常性

<https://partners.dnaspaces.io/api/partners/v1/monitoring/status> で API にアクセスしてオンプレミスまたはシングルテナント クラウド パートナー アプリケーションの正常性を確認できます。

PUT メソッドを使用し、次のリクエストヘッダーを指定します。

- コンテンツタイプ : **application/json**
- x-api-key : **api-key**

(注)

API キーの作成方法については、「[オンプレミスアプリケーション - API 統合 \(64 ページ\)](#)」を参照してください。

JSON 形式のリクエスト本文の形式は次のとおりです。

```
{
  "data": {
    "overallStatus": {
      "status": "up/down",
      "notices": [
        {
          "text": "System is up and running normally."
        }
      ]
    }
  }
}
```

```
        "message": "",  
        "category": "critical/warning/info"  
    }  
}  
]  
},  
"instanceDetails":  
{  
    "ipAddress": "",  
    "instanceId": ""  
},  
"cloudFirehose":  
{  
    "status": "connected/disconnected",  
    "lastReceived": 1576722187000  
},  
"localFirehose":  
{  
    "status": "connected/disconnected",  
    "lastReceived": 1576722187000  
},  
"subsystems":  
[  
    {  
        "name": "Engine",  
        "status": "up/down"  
    },  
    {  
        "name": "Database",  
        "status": "up/down"  
    }  
]  
}  
}
```

ステータスコードとステータスマッセージのリストを次に示します。



(注) アプリケーションのステータスは、[Live]、[Approved]、または[Under Review]状態のパートナー-applicationに対してのみ更新されます。

- 操作が成功すると、次のステータスコードとステータスマッセージが表示されます。

- ステータスコード 200: Success

```
{ "status": true, "message": "No error, operation successful" }
```

- 操作が失敗すると、次のいずれかのステータスコードと、対応するエラーメッセージが表示されます。

- **ステータスコード 400: Bad Request**

```
{ "status": false, "message": "Bad Request" }
```

- ステータスコード 403: Unauthorized request

```
{ "status": false, "message": "Authentication failure or invalid API Key" }
```

- サーバー処理中にエラーが発生した場合、ステータスコード500がクライアントに返されます。

## アプリケーションのアクティベーションの削除

### 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [App Activation Sandbox] タイルをクリックします。

**ステップ3** [EXTEND] セクションで、アクティベーションを削除するアプリケーションに移動します。

**ステップ4** 特定のアクティベーションを個別に削除するには、[Delete] をクリックします。

- 表示される [Removing Activation] ポップアップで、[Remove App] をクリックして、選択したアプリケーションのすべてのアクティベーションを削除します。

アプリケーションのアクティベーションが正常に削除されたことを示す確認メッセージが表示されます。

**ステップ5** (任意) 選択したアプリケーションに複数のアクティベーションがある場合、[Remove] をクリックすると、すべてのアクティベーションが一度に削除されます。

- 表示される [Removing Activation] ポップアップで、[Remove App] をクリックして、選択したアプリケーションのすべてのアクティベーションを削除します。

アプリケーションのアクティベーションが正常に削除されたことを示す確認メッセージが表示されます およびアプリケーションは [EXTEND] セクションに表示されなくなります。

## アプリケーションの削除

ステータスが [Draft]、[Testing]、または [Submitted] のアプリケーションを削除できます。



(注) アプリケーションは、すべてのアクティベーションを削除した後にのみ削除できます。アプリケーションの既存のアクティベーションの削除については、「[アプリケーションのアクティベーションの削除 \(72 ページ\)](#)」を参照してください。

ステータスが [Under Review]、[Approved]、[Coming soon]、または [Live] のアプリケーションは削除できません。

## 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [Your Apps] で削除するアプリケーションに移動し、省略アイコン ([...]) >[Delete App] の順にクリックします。

[Activations] ポップアップが表示され、選択したアプリケーションのアクティベーションが一覧表示されている場合、アプリケーションの削除に進む前に、すべてのアクティブなインスタンスを削除するように求められます。

(注)

アプリケーションは、すべてのアクティベーションを削除した後にのみ削除できます。アプリケーションの既存のアクティベーションの削除については、「[アプリケーションのアクティベーションの削除 \(72 ページ\)](#)」を参照してください。

[Delete App] ポップアップが表示されます。

**ステップ3** [Delete App] ポップアップで、[Confirm Delete] をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。

## リージョン固有のアプリケーションの作成

統合パートナーダッシュボードにログインした後、アプリケーションを作成して公開できます。パートナーは、GDPRの要件を満たし、ヨーロッパ地域でアプリケーションを公開する際にお客様のデータがヨーロッパ内にあることを確認している場合、<https://partners.dnaspaces.eu> にログインしてアプリケーションをテストしてからCisco Spaces - パートナー アプリケーションセンターに公開することもできます。

## 手順

**ステップ1** パートナーダッシュボードにログインします。

**ステップ2** [Create New App] をクリックします。

**ステップ3** [App Type] を選択し、[Create] をクリックします。

[App Center] ウィンドウで、アプリケーションを公開する地域を選択できます。次のオプションを使用できます。

- [Rest of the World (Except Europe region)] : ヨーロッパおよびシンガポールを除くすべての地域では、<https://partners.dnaspaces.io> の統合パートナーダッシュボードでアプリケーションを作成、テスト、アクティベーション、公開、および管理するには、このオプションを選択します。その後、アプリケーションをパートナー アプリケーションセンターに公開できます。

- [Europe Region] : EU 地域では、<https://partners.dnaspaces.io> の統合パートナーダッシュボードでアプリケーションを作成、公開、および管理するには、このオプションを選択します。ヨーロッパ地域における GDPR コンプライアンスでは、ヨーロッパ内で生成されたすべての訪問者データはヨーロッパ内に存在する必要があります。

## (注)

EU 地域専用のアプリケーションを作成した後、<https://partners.dnaspaces.eu> でパートナーダッシュボードにログインして、アプリケーションをテストしてアクティブ化してから公開してください。EU 地域に固有のアプリケーション用の Trace Firehose も、<https://partners.dnaspaces.eu> のダッシュボードで使用できます。

[App Activation Sandbox] タイルをクリックし、[Extend] セクションまで下にスクロールします。[Get Partner Apps] タイルをクリックし、ヨーロッパ地域の目的のアプリケーションを表示してアクティブ化します。

- [Singapore region] : シンガポール地域では、<https://partners.dnaspaces.io> の統合パートナーダッシュボードでアプリケーションを作成、公開、および管理するには、このオプションを選択します。その後、アプリケーションをパートナー アプリケーションセンターに公開できます。

## (注)

シンガポール地域専用のアプリケーションを作成した後、<https://partners.ciscospaces.sg> でパートナーダッシュボードにログインして、アプリケーションをテストしてアクティブ化してから公開してください。シンガポール地域に固有のアプリケーション用の Trace Firehose も、<https://partners.ciscospaces.sg> のダッシュボードで使用できます。

## ユーザーロール

### ユーザーロールの管理

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで個々のユーザーに対してロールベースアクセス制御 (RBAC) を有効にするオプションが用意されました。パートナーは、ユーザーが実行するロールに基づいて、特定の権限をユーザーに割り当てることができます。

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードでユーザーを管理するには  > [User Management] を選択します。[User Management] ページが表示されます。



## (注)

[User Management] メニューは、[PartnerDashboardReadWrite](#) アクセス権を持つパートナーのみを使用できます。

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの [User Management] ページでは、以下のタブを使用できます。

- [Users] : ここでは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにアクセスできるユーザーのリストと、Cisco Spaces ダッシュボードおよびCisco Spaces - パートナーダッシュボードの対応するロールを表示できます。Cisco Spaces - パートナーダッシュボードの[ロールを編集](#)することもできます。

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーがこのリストに表示されない場合は、そのユーザーがメールによる招待を受け入れているかどうかを確認します。



(注)

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードへの新規ユーザーは、Cisco Spaces ダッシュボードからのみ招待できます。招待を受け入れると、Cisco Spaces ダッシュボードとCisco Spaces - パートナーダッシュボードの両方にアクセスできます。

- [Roles] : Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにアクセスできるユーザーは、次の2つのロールを使用できます。

- [PartnerDashboardReadWrite] : 読み取りおよび書き込みアクセス許可を持つCisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーは、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで次のアクションを実行できます。

- パートナーアプリケーションの作成
    - パートナーアプリケーションの表示
    - パートナーアプリケーションの編集
    - パートナーアプリケーションの送信
    - パートナーアプリケーションのアクティブ化
    - すべてのCisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーのロールを変更する

- **PartnerDashboardReadOnly** : 読み取り専用権限を持つCisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーは、次のアクションに制限されます。

- パートナーアプリケーションの表示
    - パートナーアプリケーションのアクティブ化

## ユーザーロールの編集

Cisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーのユーザーロールを編集するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

[PartnerDashboardReadWrite] ロールを持つ Cisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーのみが、[User Management] メニューを使用して他の Cisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーの権限を変更できます。

## 手順

**ステップ1** Cisco Spaces - パートナーダッシュボードで  > [User Management] を選択します。

[User Management] ページが表示され、Cisco Spaces - パートナーダッシュボードユーザーのリストが表示されます。

**ステップ2** [Edit Partner Dashboard User Roles] 列で、ロールを変更する必要があるユーザーに対応する  アイコンをクリックします。

[Update User Role] ポップアップウィンドウが表示され、選択したユーザーに以前に割り当てられたユーザーロールが選択されています。

**ステップ3** [Roles] で、選択したユーザーに割り当てる権限を選択します。

**ステップ4** [Save] をクリックします。

## 次のステップ<sup>°</sup>

- アプリケーションの設定
  - マルチテナントクラウドパートナー アプリケーション (19 ページ)
  - シングルテナントクラウドパートナー アプリケーション (39 ページ)
  - オンプレミスパートナー アプリケーション (53 ページ)
- アプリケーションの更新
- アプリケーションの公開
- パートナーアプリケーションの正常性のモニター (69 ページ)



## 第 3 章

# パートナーダッシュボードの使用

- ベストプラクティス (77 ページ)
- 方法 (77 ページ)
- パートナーダッシュボードの FAQ (78 ページ)
- パートナーダッシュボードのトラブルシューティング (79 ページ)

## ベストプラクティス

- イベントタイプ
- アプリケーション統合 (66 ページ)
- API キー
  - サンドボックスキー
  - プレ製品キー
  - 製品キー

## 方法

- アプリケーションタイプの選択
- アプリケーションの更新
- アプリケーションの公開
- アプリケーションのコピー
- Trace Firehose

### Advanced

- ユーザーロール

## パートナーダッシュボードのFAQ

- ユーザーロールの管理
- ユーザーロールの編集
- リージョン固有のアプリケーションの作成

## パートナーダッシュボードのFAQ

- Q.** シミュレーションイベントを取得するにはどうすればよいですか？
- A.** アプリケーションのAPIキーを使用して、アプリケーションをアクティブ化せずに、イベントがFirehose APIをどのようにフローしているかを確認できます。
- また、[Events]タブの下にある[Receive Simulation Events]チェックボックスを選択する必要があります。
- Q.** アプリケーションのシミュレーションイベントを有効にするにはどうすればよいですか？
- A.** [Events]セクションに移動します。
- [Events]設定で、[Receive Simulation Events]を[Yes]に設定します。
- [Retail and Workspace]チェックボックスをオンにして、[Save]をクリックします。
- Q.** アプリケーションのシミュレーションイベントを取得できないのはなぜですか？
- A.** アプリケーションのリージョン設定を確認してください。シミュレーションイベントは[Rest of the world]のリージョンでのみ使用できます。
- Q.** アプリケーションが[Live]状態の場合、サンドボックスおよびプレ製品APIキーを取得するにはどうすればよいですか？
- A.** ライブアプリケーションのサンドボックスまたはプレ製品APIキーを表示するには、アプリケーションのタイルをクリックし、[More]>[Update app]をクリックして、アプリケーションのドラフトバージョンを作成します。



(注)

[Draft]状態のアプリケーションの場合、[Integration]セクションでは、サンドボックスおよびプレ製品APIキーのみを使用できます。

- Q.** ライブアプリケーションを編集できないのはなぜですか？
- A.** アプリケーションがライブになると、そのアプリケーションに対する変更は承認フロー（自動承認または管理者承認）を通じてのみ行えます。
- アプリケーションのドラフトバージョンを作成し、変更を加えて再送信します。
- Q.** ライブアプリケーションの[Integration Details]セクションしか編集できません。ライブアプリケーションにその他の変更を加えるにはどうすればよいですか？
- A.** アプリケーションが[Live]状態の場合は、[Integration Details]セクションなどの限られた設定のみ変更できます。

ライブアプリケーションに変更を加えるには、まずアプリケーションのタイルをクリックし、[More] > [Update app]をクリックして、アプリケーションのドラフトバージョンを作成します。

アプリケーションのドラフトバージョンを更新したら、[Submit] をクリックしてレビューと承認のワークフローを開始します。

- Q.** EU 地域の Cisco Spaces アカウントを持っています。Cisco Spaces - パートナーダッシュボードにオンボーディングするにはどうすればよいですか？
- A.** Cisco Spaces EU アカウントのパートナーダッシュボードのアクセスを有効にするには、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。このチームは、統合ダッシュボードにアクセスするための Cisco Spaces IO アカウントを作成します。また、パートナーアクセス用に Cisco Spaces の EU アカウントを関連付けるためにも役立ちます。
- Q.** Cisco Spaces 認証サイト (Trigue アプリケーション) を使用してアプリをアクティブ化または公開できますか？
- A.** Cisco Spaces テスト認証サイト (Trigue アプリケーション) は、アプリケーションをテストするためにのみ使用できます。アプリをアクティブ化して公開するには、これらの URL をアプリケーションの OAuth 統合 URL に置き換える必要があります。
- Q.** 組織のニーズに合わせて選択すべきアプリケーションタイプを判断するにはどうすればよいですか？
- A.** クラウドベースのソリューション (SaaS) パートナーの場合は、マルチテナントクラウドアプリケーションタイプを選択します。
- 組織がオンプレミスのパートナーソリューションを提供している場合は、オンプレミスのアプリケーションタイプを選択します。
- 詳細については、「[アプリケーションのタイプ \(13 ページ\)](#)」を参照してください。

## パートナーダッシュボードのトラブルシューティング

**問題** クラウドアプリケーションのアクティベーションが OAuth 2.0 標準を使用して実装されているかどうかを確認するにはどうすればよいですか？

**解決法** クラウドアプリケーションのアクティベーションが OAuth 2.0 標準を使用して実装されているかどうかを確認するには、scope が *get access token* API 応答に含まれているかどうかを確認します。

**解決法** また、API ヘッダーとパラメータが「[マルチテナントクラウド : O-Auth 統合](#)」で説明されているように渡されるかどうかを相互検証します。

**問題** マルチテナントクラウドアプリケーションのアクティベーションが成功したかどうか、およびイベントがフローしているかどうかを確認するにはどうすればよいですか？

**解決法** マルチテナントクラウドアプリケーションのアクティベーションステータスを確認するには、[App Activation Sandbox] セクションに移動します。

## パートナーダッシュボードのトラブルシューティング

**解決法** Firehose イベントがアクティベーション後にフローしているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. **解決法** パートナーダッシュボードのホームページで特定のアプリケーションタイルに移動し、[More] > [Firehose Trace] の順にクリックします。
2. **解決法** [Download Present Data] をクリックします。

**解決法** イベントのフローが開始されます。

**問題** オンプレミスまたはシングルテナントクラウドアプリケーションのアクティベーションが成功したかどうか、およびイベントがフローしているかどうかを確認するにはどうすればよいですか？

**解決法** オンプレミスまたはシングルテナントクラウドアプリケーションが正常にアクティブ化されると、API キーが正常に生成されたことがわかります。

**解決法** Firehose イベントがアクティベーション後にフローしているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. **解決法** パートナーダッシュボードのホームページで特定のアプリケーションタイルに移動し、[More] > [Firehose Trace] の順にクリックします。
2. **解決法** [Customer] および対応する [Activation] を選択します。
3. **解決法** [Download Present Data] をクリックします。

**解決法** イベントのフローが開始されます。

**問題** アプリケーションを送信するときに、「App Submission Restricted」というエラーが表示されるのはなぜですか？

- **考えられる原因** アプリケーションモニタリング URL が指定されていないか、無効になっています。
- **考えられる原因** デフォルトの OAuth URL、シスコのテストサイト (Trigue) URL が有効な OAuth URL に更新されていません。

**解決法** Cisco Spaces-パートナーダッシュボードで、送信できないアプリケーションに移動し、[Edit] をクリックします。

- **解決法** [Behaviors] タブ > [APP MONITORING] セクションに移動します。アプリケーションを送信する準備ができたら、有効なアプリケーションモニタリング URL を指定します。
- **解決法** [App Tile] タブ > [OAuth URL Configurations] セクションに移動します。アプリケーションの送信準備ができたら、Cisco Spaces のテスト認証サイト (Trigue) の URL を有効な OAuth URL に置き換えます。



## 第 4 章

# サンプルアプリケーション

- サンプルアプリケーション (81 ページ)

## サンプルアプリケーション

このセクションには、Cisco DevNet および GitHub.com の Firehose API - サンプルアプリケーションへの参照が含まれています。



(注) ファイルをダウンロードまたはサンプルリポジトリのクローンを作成するには、有効な GitHub アカウントが必要です。

表 1: *Cisco Spaces Firehose API* - サンプルアプリケーション

サンプルアプリケーション	説明	URL
<b>Cisco Spaces Firehose API - 現在の訪問者</b>	<p>Cisco Spaces - Partner Firehose API には、デバイスの入場、退出、現在のロケーション、関連するプロファイルなどの複数のイベントが含まれます</p> <p>Cisco Spaces パートナーは、Firehose API データを統合してこれらのイベントを使用し、多くのユースケースを実現できます。そのユースケースの1つが、特定のお客様のロケーションにおける現在の訪問者を表示するというものです。</p> <p>サンプルアプリケーションでは、入場、退出、現在のロケーション、関連するプロファイルなどの Cisco Spaces - Partner Firehose API イベントを使用し、AWS S3 と AWS Redshift を使用してデータパイプラインを構築します。</p> <p>このサンプルアプリケーションは、次の 2 つのコンポーネントで構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. API サーバー</li> <li>2. クライアント</li> </ol>	<a href="#">現在の訪問者 - アプリケーション</a>

サンプルアプリケーション	説明	URL
<b>Cisco Spaces Firehose API : 検出と位置特定</b>	<p>このサンプルアプリケーションでは、デバイスのロケーションの更新 Cisco Spaces - Partner Firehose API イベントを使用します。</p> <p>このサンプルアプリケーションには、次のコンポーネントが含まれています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. API サーバー</li> <li>2. Proxy Server</li> <li>3. クライアント</li> <li>4. Kafka コンシューマアプリケーション</li> </ol>	<a href="#">検出と位置特定アプリケーション</a>
<b>Cisco Spaces Firehose API - パートナーアプリケーションのアクティブ化</b>	<p>このサンプルアプリケーションでは、Cisco Spaces パートナーアプリケーションをアクティブ化する方法を示します。</p> <p>Cisco Spaces では、OAuth 2.0 を使用してパートナーダッシュボードとの統合を容易にし、アプリケーションのアクティベーションのためにお客様を認証して、アプリケーションを起動するために署名付き JSON Web トークン (JWT) 認証を使用します。</p>	<a href="#">パートナーアプリケーションのアクティブ化</a>
<b>人感センサーパプリケーション</b>	<p>このサンプルアプリケーションでは、Cisco Spaces - Partner Firehose API で使用された人感センサーデータを可視化します。</p>	<a href="#">人感センサーパプリケーション</a>

サンプルアプリケーション	説明	URL
<b>Cisco Spaces Firehose API - MongoDB ハンドラ</b>	このサンプルスクリプトは、Cisco Spaces - Partner Firehose API イベントデータを MongoDB に保存するのに役立ちます。これは、Cisco Spaces ストリームと MongoDB Atlas の間に単純なインターフェイスを作成するように設計されています。	<a href="#">MongoDB ハンドラ</a>



## 第 5 章

# Firehose イベント

- [Firehose イベント \(85 ページ\)](#)

## Firehose イベント

Cisco Spaces はアプリケーションにデータを送信します。このデータはさまざまなイベントに対応しています。Firehose API では、複数のテクノロジーに関連するデータが单一のストリームで送信されます。アプリケーション用にストリーミングされるデータの量を制限できるよう、必要なイベントのみを選択することを推奨します。

詳細については、「[Cisco Spaces Firehose API](#)」および「[Cisco Spaces Firehose Streaming API 1.0.0](#)」を参照してください。

## Firehose イベント

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。